わかる、できる、役に立つ!!

拡張のキモ!!

オプション、周辺機器の接続と設定には、この一冊!

プリンタも、LANV LANV接続、すいすい活用!

周辺機器の増設トラブルの対処方法も解説!

PC98-NX SERIES

VALUESTAR NX

VC33/3 VC26/3 VC23/3
VE26/3 VE23/3

やりたいこと別マニュアルガイド
（VC23/3、VE26/3,VE23/3 の場合）

パソコンの接続とセットアップをしたい …… STEP 1　接続と準備
マウスの使い方を知りたい …… STEP 2　入門
キーボードで文字を打ってみたい …… STEP 2　入門
ワープロを使いたい …… STEP 2　入門
インターネットを利用したい …… インターネット入門
FAX 機能を利用したい …… リファレンス
プリンタをつなぎたい …… 拡張の手引き
オプション機器を取り付けたい …… 拡張の手引き
Windows 95 について知りたい …… STEP 3　活用
デスクトップについて知りたい …… STEP 3　活用
パソコンの中に入っているソフトを使いたい …… リファレンス
このパソコンの機能について詳しく知りたい …… リファレンス
パソコンが思うように動かない …… 困ったときの Q&A
マニュアル総索引を使いたい …… 困ったときの Q&A
パソコン用語の意味を知りたい …… 困ったときの Q&A
再セットアップしたい …… 困ったときの Q&A

やりたいこと別マニュアルガイド
（VC33/3、VC26/3 の場合）

パソコンの接続とセットアップをしたい …… 入門ガイド
マウスの使い方を知りたい …… 入門ガイド
キーボードで文字を打ってみたい …… 入門ガイド
ワープロを使いたい …… 入門ガイド
インターネットを利用したい …… インターネット入門
FAX 機能を利用したい …… リファレンス
プリンタをつなぎたい …… 拡張の手引き
オプション機器を取り付けたい …… 拡張の手引き
Windows 95 について知りたい …… 入門ガイド
デスクトップについて知りたい …… 入門ガイド
パソコンの中に入っているソフトを使いたい …… リファレンス
このパソコンの機能について詳しく知りたい …… リファレンス
パソコンが思うように動かない …… 困ったときの Q&A
パソコン用語の意味を知りたい …… 困ったときの Q&A
再セットアップしたい …… 困ったときの Q&A

はじめに

プリンタなどの機器をパソコンに接続して使うときには、このマニュアルの中から該当するPARTを探してください。また、パソコン内部にメモリなどを取り付けるときの説明も、このマニュアルに含まれています。

あなたのパソコンに周辺機器やオプションを取り付けたいと思ったときは、このマニュアルが役に立ちます。説明をよく読んで、間違いのないように操作してください。

1998年6月　初版

808-883619-005-A

このマニュアルの表記について

◆手順は左、補足説明は右に

このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でやたらにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。はじめてパソコンを扱うかたは、右側の説明もよく読んでください。

◆このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

⚠警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠注意	注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。
感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。
	電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

チェック!!	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
用語	パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。
参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
プリンタ、コネクタなど	「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

表をご覧になり、購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル（機種）を指します。
液晶ディスプレイセットモデル	液晶ディスプレイがセットになっているモデルのことです。
CRTディスプレイセットモデル	CRTディスプレイがセットになっているモデルのことです。
ディスプレイなしモデル	ディスプレイが別売となっているモデルのことです

型　名	型　番	表記の区分			
		本体の形状	CD-ROM/CD-R /DVD-ROM	ディスプレイ	添付アプリケーション
VC33/3FC	PC-VC333FC	コンパクトタイプ	CD-ROM モデル	液晶ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VC33/3FD	PC-VC333FD			(15 インチ液晶)	Word モデル
VC26/3XC	PC-VC263XC			液晶ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VC26/3XD	PC-VC263XD			(14 インチ液晶)	Word モデル
VC26/3ZC	PC-VC263ZC			ディスプレイなしモデル	一太郎モデル
VC26/3ZD	PC-VC263ZD				Word モデル
VC23/3XC	PC-VC233XC			液晶ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VC23/3XD	PC-VC233XD			(14 インチ液晶)	Word モデル
VE26/37C	PC-VE2637C			CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VE26/37D	PC-VE2637D			(17 インチ CRT)	Word モデル
VE26/35C	PC-VE2635C			CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VE26/35D	PC-VE2635D			(15 インチ CRT)	Word モデル
VE23/35C	PC-VE2335C			CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VE23/35D	PC-VE2335D			(15 インチ CRT)	Word モデル
VE23/35A	PC-VE2335A				ワープロ / 表計算なしモデル
VE23/3ZA	PC-VE233ZA			ディスプレイなしモデル	ワープロ / 表計算なしモデル

◆本文中の画面

本文中の画面は、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面とは多少異なることがあります。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System

ご注意

(1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3)本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。
(4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6)海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 95および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
(8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、および Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 1998
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出する際の注意事項
本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。 本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。 また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

目次 CONTENTS

はじめに i
このマニュアルの表記について ii

このパソコンで使える周辺機器 xi
本体前面に取り付けることができる周辺機器 xi
本体背面に取り付けることができる周辺機器 xii
本体内部に取り付けることができる周辺機器 xiii

PART 1

プリンタを使う 1

プリンタの種類 2
家庭で使う 2
会社で使う 3

用意するもの 4

プリンタを接続する 5
USB コネクタに接続する場合 5
パラレルコネクタに接続する場合 7

パソコン側の設定 9
パソコンが自動的に設定してくれる場合 9
パソコンが自動的に設定してくれなかった場合 9

PART 2

USB 対応機器を使う 17

USB の基礎知識 18
USBって何？ 18
USB の接続方法 18
USB ハブを使う 19

USB 対応機器のご紹介 20
イメージスキャナ 20
プレイスティック、プレイパッド、ドライビングホイール 22
デジタルビデオカメラ 22
ISDN ターミナルアダプタ 22

PART 3

オーディオ機器を使う 23

ヘッドホンを使う 24

ヘッドホンの接続 24

ヘッドホンの音量を調節する 25

外部オーディオ機器を使う 26

パソコンの音を外部オーディオ機器で聞くとき 26

外部オーディオ機器の音をパソコンで聞くとき 27

PART 4

ターミナルアダプタを使う 29

ターミナルアダプタについて 30

いろいろなターミナルアダプタ 31

ターミナルアダプタを接続する前に 32

ターミナルアダプタを接続する 34

シリアルコネクタに接続する場合 34

USB コネクタに接続する場合 35

PART 5

パワーアップのための基礎知識 37

ドライバについて 38

プラグ & プレイ対応機器の場合 38

プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合 38

機器を取り付けるときのご注意 39

本体の開け方と閉め方 40

用意するもの 40

ルーフカバーの外し方 40

ルーフカバーの取り付け方 43

フロントマスクの外し方 45

フロントマスクの取り付け方 47

ケーブルカバーの外し方 48

ケーブルカバーの取り付け方 49

目次
CONTENTS

PART 6

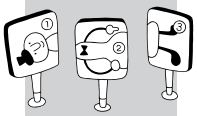
メモリを増やす 51

メモリについて 52
- メモリを増やすには 52
- このパソコンで使える増設 RAM サブボード 52
- メモリの増やし方の例 53

増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し 56
- ボードを取り扱うときに気をつけること 56
- 増設 RAM サブボードの取り付け方 56
- 増設 RAM サブボードの取り外し方 58

増やしたメモリを確認する 60
- 確認する操作 60
- メモリが増えていなかったら 62

PART 7



ハードディスクを増設する 63

外付け用のハードディスクを増設する 64
- 外付け用のハードディスクの接続に必要なもの 64
- 外付け用のハードディスクの接続方法 64

ハードディスクをフォーマットする 66
- フォーマットについて 66
- 増設したドライブのドライブ名について 67
- 領域を削除する 68
- 領域を作成する 70
- ドライブをフォーマットする 72

PART 8

SCSIインターフェイス対応機器を使う 75

SCSIインターフェイスについて 76

SCSI対応機器を接続するために必要なもの 76

接続できるSCSI対応機器 76

SCSIに関する基礎知識 76

SCSIインターフェイスの種類 77

SCSIインターフェイスボードを取り付ける 78

SCSI機器を接続する 81

SCSI機器が認識されないときは 82

PART 9

PCIボードを使う 83

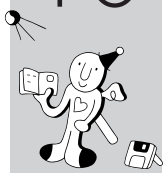
PCIスロットについて 84

いろいろなPCIボード 84

PCIスロット 84

PCIボードを取り付ける 85

PART 10



VRAMを増やす 89

VRAMについて 90

VRAMを4Mバイトにすると 90

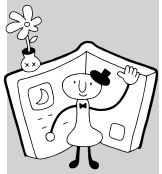
増設VRAMの取り付け方 91

増設VRAMを取り扱うときに気をつけること 91

増設VRAMの取り付け方 91

増やしたVRAMを確認する 94

PART 11



うまく動かないときは 97

困ったときのチェックポイント 98

こんなときは 99

「新しいハードウェアが見つかりました」と表示されない 99

「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示される ... 101

リソースに関する問題 104

PCIボードなら大丈夫？ 104

リソースが競合したら 104

このパソコンが利用しているリソース 105

索　引 107

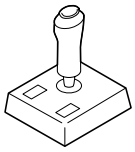
このパソコンで使える周辺機器

本体前面に取り付けることができる周辺機器

※ 周辺機器の取り付けの際は、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうか十分注意してください。また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルを参考にしてください。

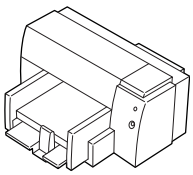
USB コネクタ

USB 対応プレイスティック
→ PART 2

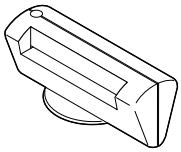


USB 対応プレイパッド
→ PART 2

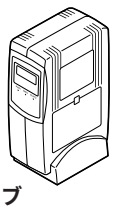
USB 対応プリンタ
→ PART 1



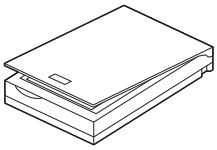
USB 対応スキャナ
→ PART 2



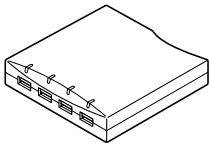
USB 対応ISDN ターミナルアダプタ
→ PART 2、4



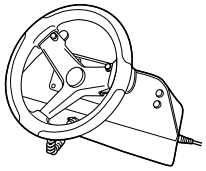
USB 対応フラッドヘッドスキャナ→ PART 2



USB ハブ
→ PART 2



USB 対応ドライビングホイール
→ PART 2



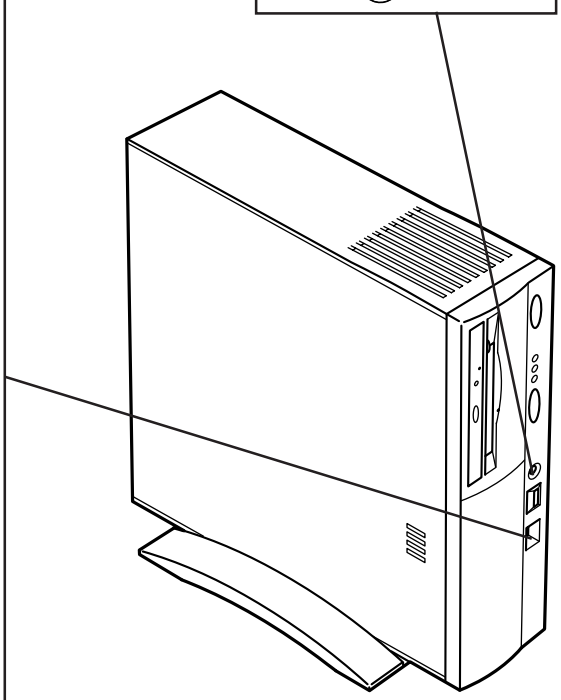
USB 対応デジタルビデオカメラ
→ PART 2

その他の USB 対応機器
(標準添付のキーボードを含む)

※ USB コネクタが足りなくなった場合には、別売の USB ハブを使ってコネクタを分岐することができます。

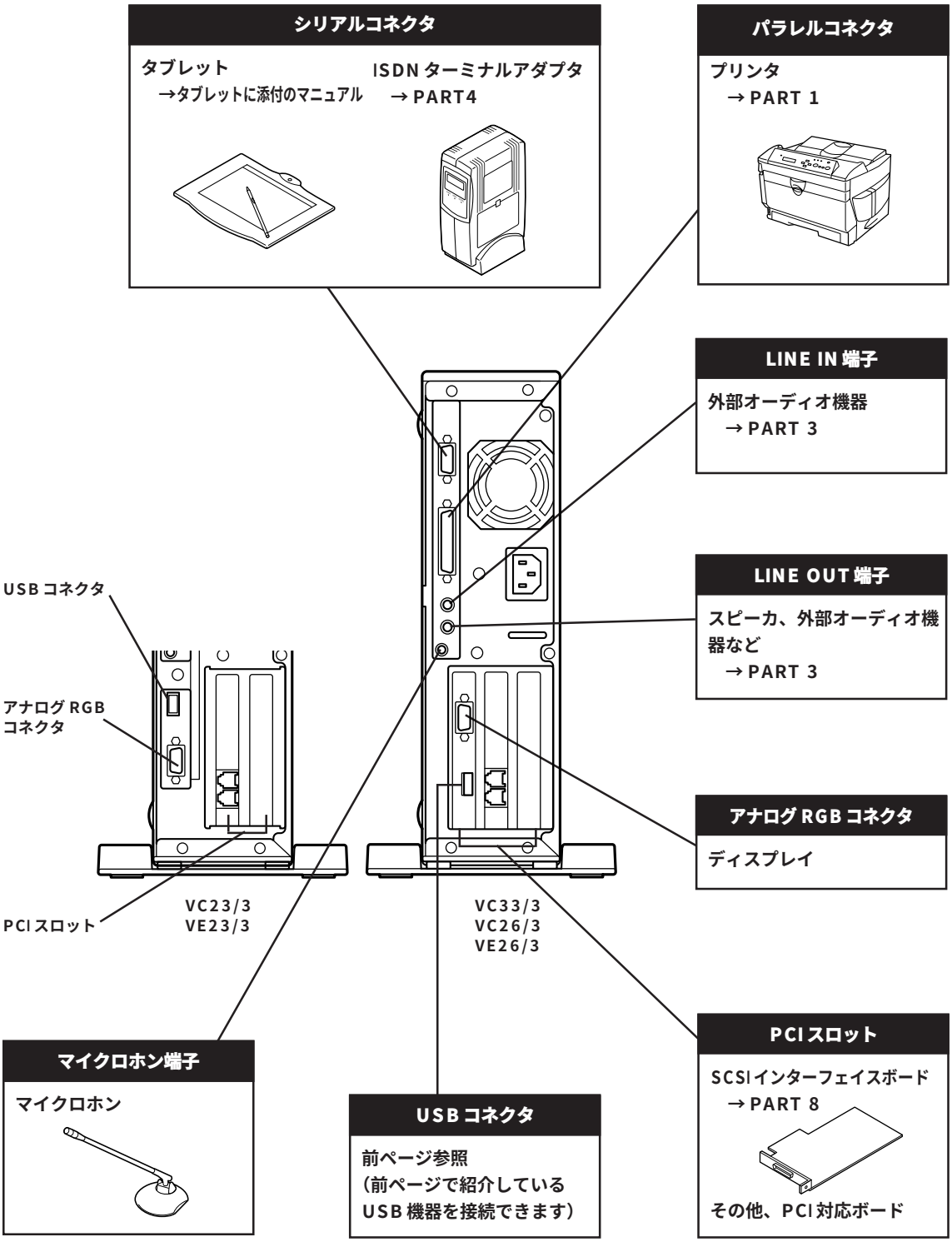
ヘッドホン端子

ヘッドホン
→ PART 3



※ USB コネクタは本体前面と本体背面に 1 つずつあります (同様に使用できます)。

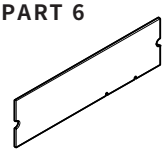
本体背面に取り付けることができる周辺機器



本体内部に取り付けることができる周辺機器

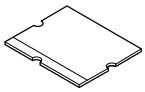
増設 RAM サブボード用コネクタ

増設 RAM サブボード
→ PART 6



増設 VRAM 用コネクタ

（VC26/3、VE26/3）
増設 VRAM
→ PART 10

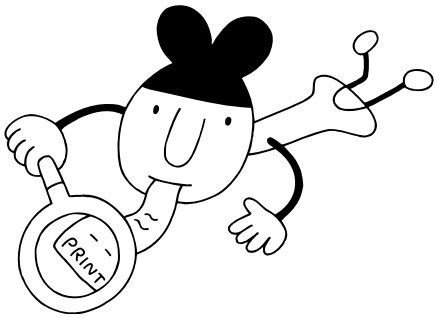


PART

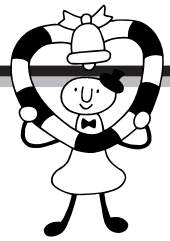
1

プリンタを使う

ここでは、プリンタを使えるようにするための準備作業を説明します。
パソコンとプリンタをつなぐだけでパソコンが自動的にプリンタを使えるようにしてくれることもありますが、プリンタをつなげたあとで、設定が必要なこともあります。



プリンタの種類

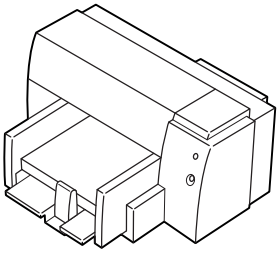


プリンタは印刷する方法によって、
いくつかの種類に分けられます。用途に合わせて自分に
ピッタリのプリンタを選びましょう。

家庭で使う

●年賀状や誕生日カードなどをカラーで印刷したい

カラーで印刷するなら、値段も手頃な「インクジェットプリンタ」がおすすめです。



カラー印刷　：◎
印字品質　：○
印刷スピード　：△
動作の静かさ　：◎
複写印刷　：×

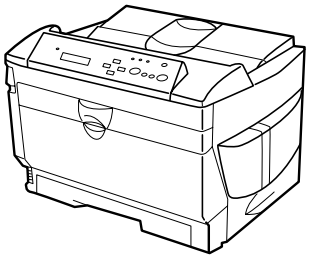
用語

インクジェットプリンタ

液体のインクを霧のように紙に吹き付けて印刷します。複数のカラーインクを使って吹き付けることで、色鮮やかなカラー印刷が可能です。ノートに文章を書くように上から順番に印刷するので、印刷には少し時間がかかります。比較的手頃な価格のものからあります。

●モノクロの会報誌やレポートなどたくさんの量を印刷したい

一度にたくさんの量を印刷する場合は、高速で大量印刷もできる「レーザープリンタ（ページプリンタ）」がおすすめです。



カラー印刷　：△
印字品質　：◎
印刷スピード　：◎
動作の静かさ　：◎
複写印刷　：×

用語

レーザープリンタ
（ページプリンタ）

印刷のしくみは、トナーを使うコピー機と同じ方式です。美しく高速な印刷が可能です。一部の高価なレーザープリンタでカラー印刷できるものもあります。

会社で使う

●社内文書などを印刷したい

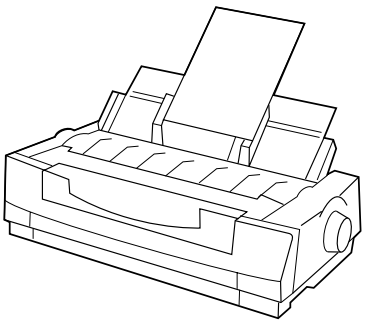
急いでいるとき、印刷されるまでの待ち時間はイライラさせられるものです。社内文書などは高速できれいに印刷できる「レーザープリンタ」（前ページ参照）がおすすめです。

●OHP シートにカラーで印刷したい

「インクジェットプリンタ」（前ページ参照）を使えば、OHP シートにカラー印刷できます。カラー OHP を使えばプレゼン効果も抜群です。

●複写式伝票に印刷したい

「ドットインパクトプリンタ」をお選びください。
多少印字品質が悪く、印刷するときの印刷音が気になりますが、叩く方式で印刷するため、カーボン紙を用いると複数の紙に同時に印刷できます。



カラー印刷	：△
印字品質	：△
印刷スピード	：○
動作の静かさ	：×
複写印刷	：◎

用語

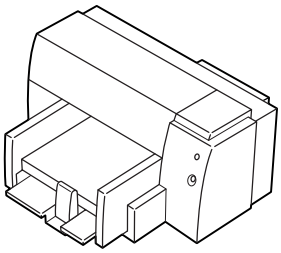
ドットインパクトプリンタ

ピンを紙に打ち付けて印刷します。印字品質が粗く、印刷時に大きな音をたてますが、カーボン紙などを使って複数の紙に印刷することができます。複写式の伝票を印刷するときには便利です。

用意するもの

プリンタを使えるようにする作業は、多少長い手順になります。手順の途中であわてないように、あらかじめ次のものが用意されているかご確認ください。

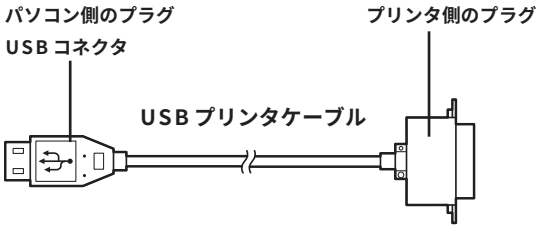
●プリンタ



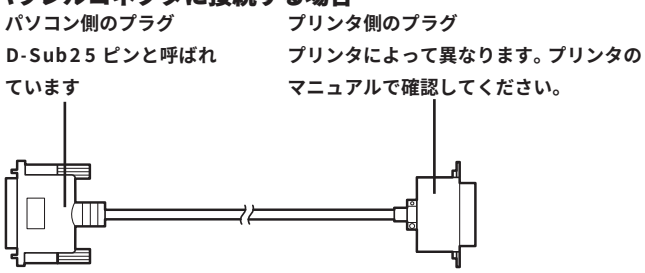
●プリンタのマニュアル

●プリンタケーブル

USB コネクタに接続する場合



パラレルコネクタに接続する場合



●プリンタに添付の CD-ROM またはフロッピーディスク

プリンタによっては添付のCD-ROMまたはフロッピーディスクが必要です（必要としない場合もあります）。

あらかじめプリンタのマニュアルをご覧になり、接続以前の準備作業（例えば配送用の保護材を外したり、インクや用紙をセットしたりという作業）を済ませておいてください。

チェック!!

プリンタの機種によって、USB コネクタには接続できない場合もあります。ご購入元、またはプリンタのマニュアルで確認してください。

プリンタケーブルはプリンタと一緒に購入してください。プリンタに同梱されている場合もありますが、プラグの形によっては、このパソコンで使えない場合もあります。プリンタケーブルを購入するときには、このパソコンで使用できるかどうかお店で確認してください。

チェック!!

ハーフピッチ 36 ピンの PC-9800 シリーズ用プリンタケーブルを使う場合には、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ（PK-CA101）が必要です。

プリンタを接続する

ここでは、プリンタをパソコンのコネクタに接続する方法を説明します。

⚠警告

雷が鳴り出したら、パソコンや電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

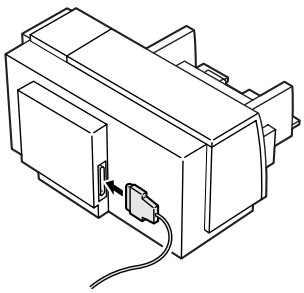
落雷による感電のおそれがあります。

USBコネクタに接続する場合

USB対応プリンタは、パソコンの電源が入っている状態で接続や取り外しができます。

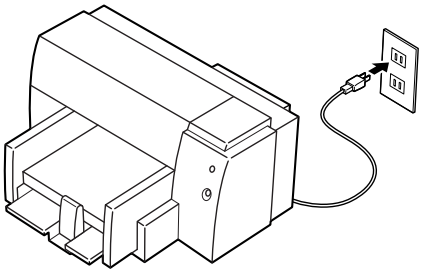
1 プリンタに添付されているマニュアルをよく読んで、必要な準備を行う

2 USBプリンタケーブルのプリンタ側のプラグを、プリンタのコネクタに差し込む



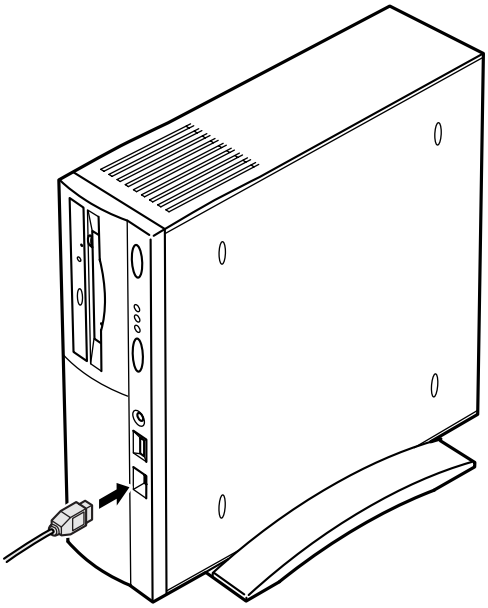
ケーブルの接続方法については、ケーブルまたはプリンタのマニュアルをご覧ください。

3 プリンタの電源ケーブルをコンセントに接続する



4 プリンタの電源を入れる

5 USB プリンタケーブルのもう一方のプラグを、本体の USB コネクタに差し込む



初めてプリンタを接続すると、パソコンが自動的に設定を始めます。プリンタやUSBプリンタケーブルのマニュアルを見てパソコン側の設定作業を行ってください。

USB コネクタは、本体の前面、背面に用意されています。空いているコネクタに接続してください。VC33/3 の場合は、セットの液晶ディスプレイの USB コネクタを使うことができます。
また、別売の USB ハブを利用すれば、USBコネクタを増やすことができます。

参照
USB ハブについては→ PART 2 の「USB 対応機器を使う」

パラレルコネクタに接続する場合

⚠注意

感電注意

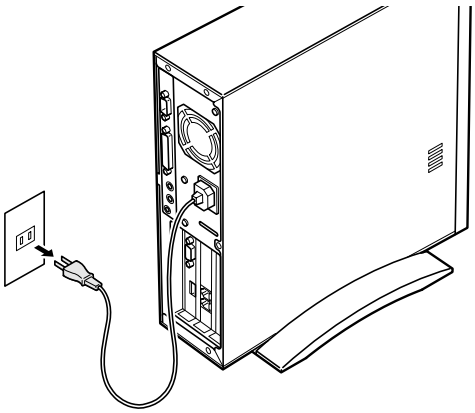
作業の前にこのパソコンの電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

発火注意

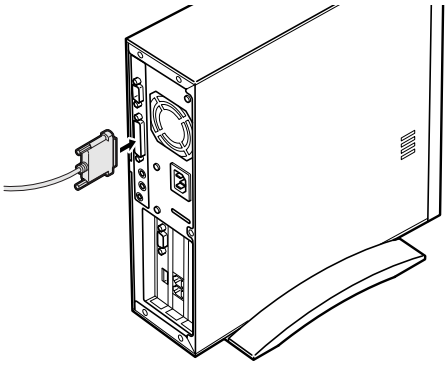
電源ケーブルを接続したままで作業すると、感電、発煙の原因になります。

1 本体と周辺機器の電源を切る

2 本体と周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜く



3 プリンタケーブルのパソコン側のプラグを、本体背面のパラレルコネクタに差し込む



参照

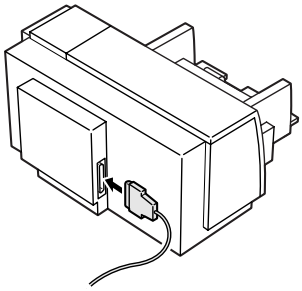
プリンタケーブルのプラグの形→「用意するもの」
このとき、ケーブル側のプラグの形状を確認し、台形の幅の広い方が右にくるように差し込んでください。

コネクタの左右には、抜けを防止するためのネジが付いています。プラグを差し込んだら、このネジでプラグを固定してください。

チェック!!

- ハーフピッチ 36 ピンの PC-9800 シリーズ用プリンタケーブルを使う場合には、プリンタインタフェース変換コネクタ（PK-CA101）が必要です。
- パラレルコネクタには、D-Sub25 ピンのシリアル機器を接続しないでください。

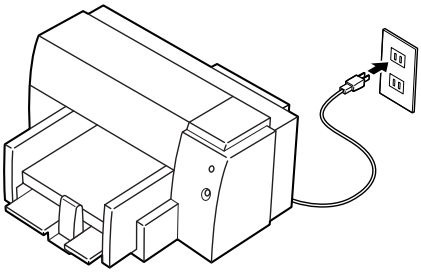
4 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタのコネクタに差し込む



プリンタによって、コネクタの位置は異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

プリンタ側のコネクタにも、抜けを防止するためのツメ、あるいは金具、ネジなどが付いています。プリンタのマニュアルにしたがって、ツメ、金具、ネジでコネクタを固定してください。

5 プリンタの電源ケーブルをコンセントに接続する



プリンタによって、電源ケーブルの接続方法は異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

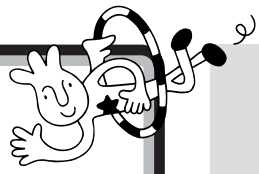
チェック!!

レーザープリンタは、比較的大きな電力を消費します。ブレーカが落ちたりしないように、電力に余裕のあるコンセントに接続してください。

6 本体と周辺機器の電源ケーブルをコンセントに差し込む

まだパソコンやプリンタの電源は入れないでください。電源を切ったまま、次の項「パソコン側の設定」に進みましょう。

パソコン側の設定



プリンタによっては、パソコン側でプリンタのための設定をする必要があります。

パソコンが自動的に設定してくれる場合

プリンタによっては、プリンタを接続したあと、プリンタとパソコンの電源を入れれば、自動的に設定を行ってくれるものがあります。
この場合には、パソコン側の設定を行う必要はありません。

このようなプリンタを接続した場合には、プリンタとパソコンの電源を入れると、自動的に「設定中」であることを示す画面が表示され、処理が行われます。

ただし、プリンタによっては、引き続き操作が必要な場合があります。必ずプリンタのマニュアルで確認してください。
このプリンタを通常使うプリンタに設定するには、Windowsのヘルプをご覧ください。ヘルプの画面で、キーワードに「通常使うプリンタ」と入力して表示される説明に従ってください。

パソコンが自動的に設定してくれなかった場合

このような場合には、どこのメーカーの何というプリンタを使うのかをパソコンに伝え、適切な情報がプリンタに送られるようにしなくてはなりません。この役割をするソフトのことを「プリンタドライバ」と言います。ここでは、このパソコンに「プリンタドライバ」を組み込みます。
設定の前に、お使いのプリンタの製造元（メーカー）と製品（機種名）を確認しておいてください。

●パソコン側の設定を始める

1 プリンタの電源が切れていることを確認する

2 パソコンの電源を入れる

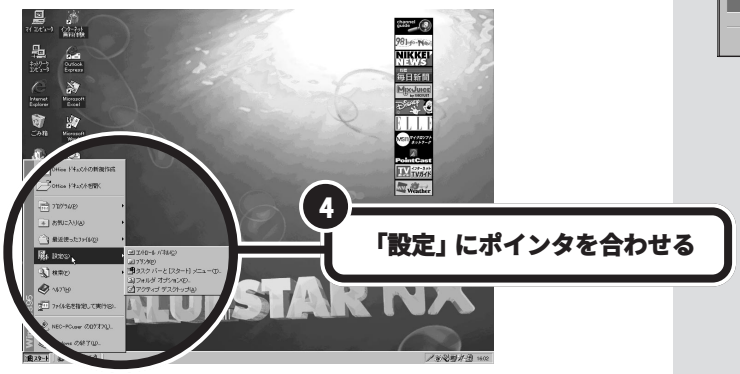
用語

プリンタドライバ

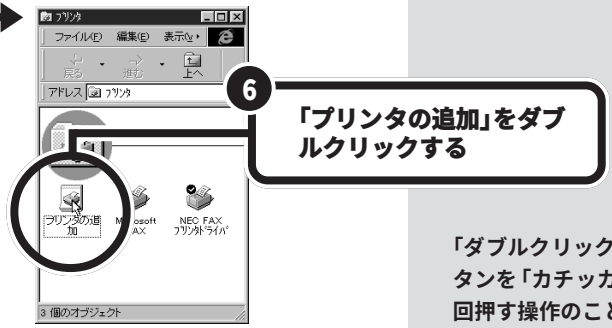
印刷したい情報をパソコンからプリンタへ適切に伝えるためのソフトウェアです。プリンタを接続したとき、最初に一度だけ組み込みます。

チェック!!

この手順は、p.15の最後まで続けて操作してください。設定が終わるまで20～30分くらいかかります。
途中で電源を切ったりすると、組み込みができなくなってしまうような場合もありますので、十分ご注意ください。



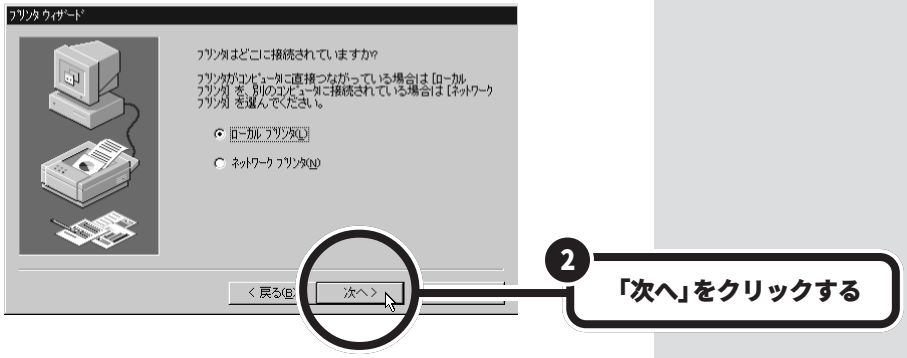
「プリンタ」のウィンドウが表示される

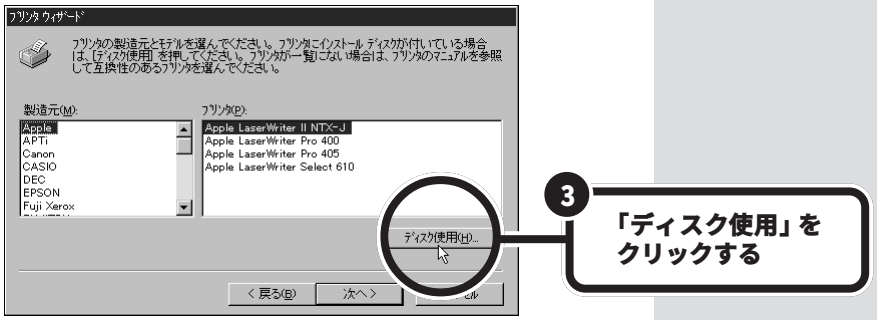


プリンタの電源が切れていない状態でパソコンの電源を入れると、「デバイスドライバウィザード」または「新しいハードウェア」のウィンドウが表示されます。この場合には、「キャンセル」をクリックして、ウィンドウを閉じてから、手順 3 から操作を進めてください。

「ダブルクリック」は、マウスの左ボタンを「カチッカチッ」とすばやく 2 回押す操作のことです。

●プリンタドライバを組み込む





参照

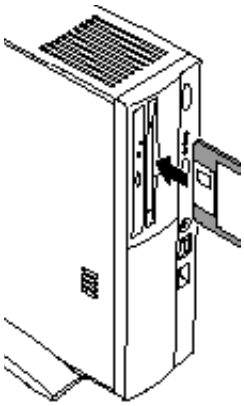
このパソコンよりも1、2年前に買ったプリンタの場合には→PART 1の「こんなときには」

参照

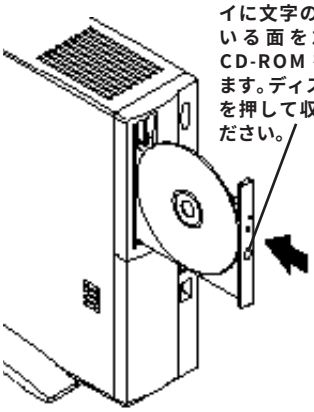
プリンタにプリンタドライバが添付されていなかった場合には→PART 1の「こんなときには」

4 プリンタに付いてきたドライバの入っているフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする

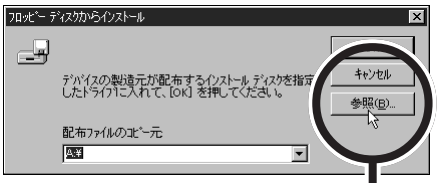
フロッピーディスクの場合



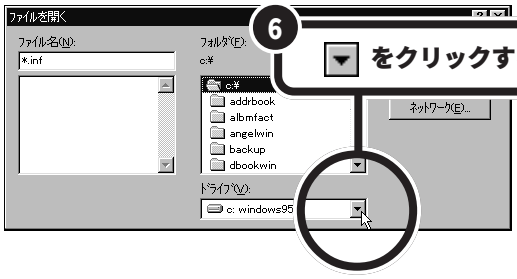
CD-ROMの場合



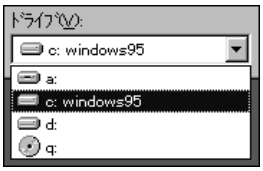
このボタンを押し、出てきたディスクトレイに文字の書かれている面を左にしてCD-ROMをセットします。ディスクトレイを押して収納してください。



5 「参照」をクリックする



6 をクリックする



7 フロッピーディスクをセットした場合は「a:」をクリックする CD-ROMをセットした場合は「q:」をクリックする

フロッピーディスクまたはCD-ROMの内容が表示される

参照

フロッピーディスクをセットする方法→
VC33/3、VC26/3、の場合、『入門ガイド』PART 8「フロッピーディスクを使う」
VC23/3、VE26/3、VE23/3の場合、『STEP 3 活用』PART 4「フロッピーディスクを使う」

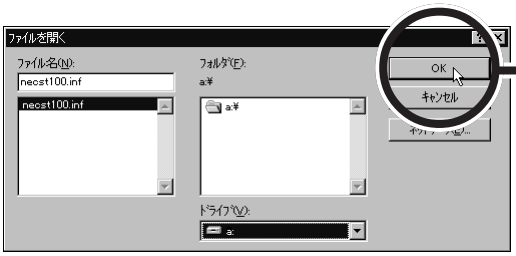
CD-ROMをセットする方法→
VC33/3、VC26/3、の場合、『入門ガイド』PART 8「CD-ROMの扱い方」
VC23/3、VE26/3、VE23/3の場合、『STEP 2 入門』PART 10「CD-ROMの扱い方」

プリンタに複数枚のフロッピーディスクまたはCD-ROMが添付されていることがあります。プリンタのマニュアルを確認して、ドライバの入っているフロッピーディスクまたはCD-ROMを探してください。

添付されていたドライバに、PC-9800シリーズ用とDOS/V用の2種類のドライバがあった場合は、DOS/V用のドライバを使用してください。

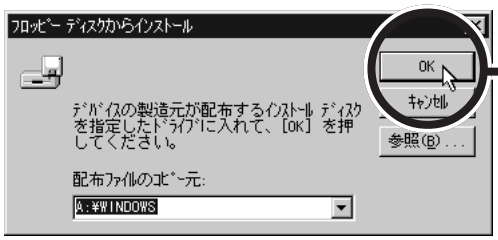
8 目的のプリンタドライバの場所を選択してください。

プリンタドライバの入っている場所は、お使いのプリンタによって異なります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



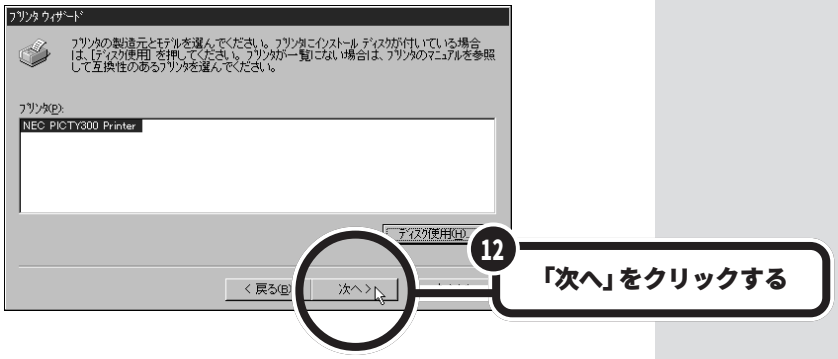
9 「OK」をクリックする

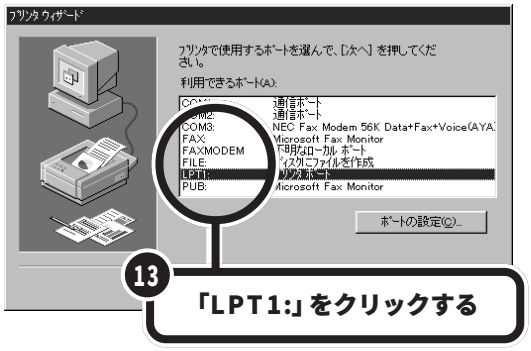
「指定された場所にはハードウェア情報がありません」と表示された場合は、「OK」をクリックし、プリンタのマニュアルをもう一度確認した後、P.12 の手順 5 からの操作を行ってください。



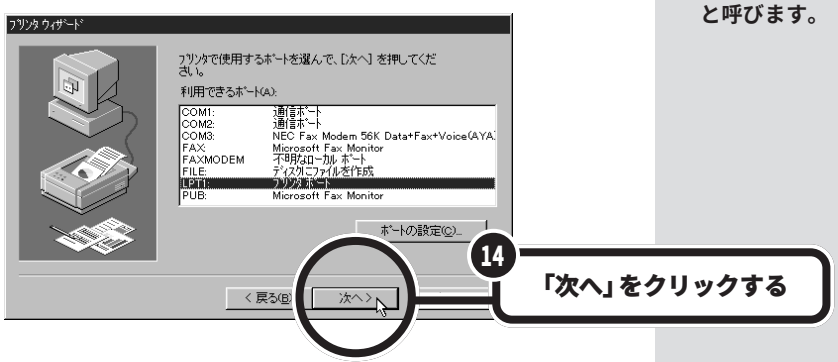
10 「OK」をクリックする

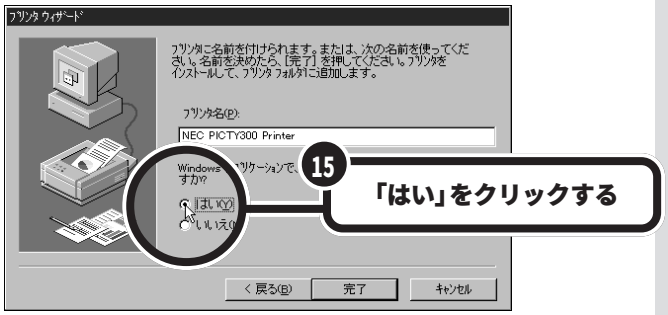
11 あなたのプリンタの機種名をクリックする





パソコンとプリンタ間でやりとりする情報の出入り口を指定します。周辺機器とパソコンとの情報の出入り口のことをポートといい、プリンタの出入り口のことをプリンタポートと呼びます。





この画面では、プリンタの名前を変更することもできます。プリンタの名前を変更するときは、「プリンタ名」の下側の欄に表示されているプリンタ名をクリックした後、文字を書き込みます。

16 「完了」をクリックする

プリンタによっては、「完了」のかわりに「次へ」が表示されます。この場合には、次のテスト印刷の操作に進みます。

17 先ほどセットしたフロッピーディスクまたはCD-ROMを取り出す

フロッピーディスクの場合には、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンを押し、フロッピーディスクを取り出します。
CD-ROMの場合には、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押し、出てきたディスクトレイのCD-ROMを取り出します。ディスクトレイを押して収納してください。

参照

フロッピーディスクを取り出す方法→
VC33/3、VC26/3、の場合、『入門ガイド』PART 8「フロッピーディスクを使う」
VC23/3、VE26/3、VE23/3の場合、『STEP 3 活用』PART 4「フロッピーディスクを使う」

CD-ROMを取り出す方法→
VC33/3、VC26/3、の場合、『入門ガイド』PART 8「CD-ROMの扱い方」
VC23/3、VE26/3、VE23/3の場合、『STEP 2 入門』PART 10「CD-ROMの扱い方」

18 プリンタの電源を入れる

チェック!!

プリンタの電源を入れる操作については、プリンタのマニュアルをご覧ください。

●テスト印刷する

プリンタによっては、この後、テスト印刷のウィンドウが表示されます。「はい」をクリックした後、「完了」をクリックすれば、テスト印刷が実行されます。

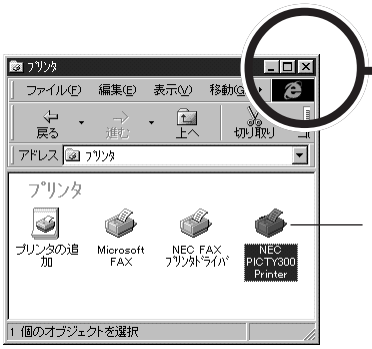
プリンタによっては、引き続き操作が必要な場合があります。必ずプリンタのマニュアルで確認してください。

●テスト印刷を終わる

テストページの印刷が完了すると、「プリンタの印字テストが完了しました」というメッセージが表示されます。テストページが正しく印刷された場合は、「はい」をクリックします。

テストページがプリンタから印刷されない場合や、文字などが正しく印刷されない場合は、「いいえ」をクリックし、画面に表示されるヘルプの内容に従って操作してください。

●プリンタの準備を終わる



1 ✕ をクリックする

新しく準備を整えたプリンタ

画面には、新しく準備を整えたプリンタが表示されているはずです。
このプリンタを通常使うプリンタに設定するには、Windowsのヘルプをご覧ください。ヘルプの画面で、キーワードに「通常使うプリンタ」と入力して表示される説明に従ってください。

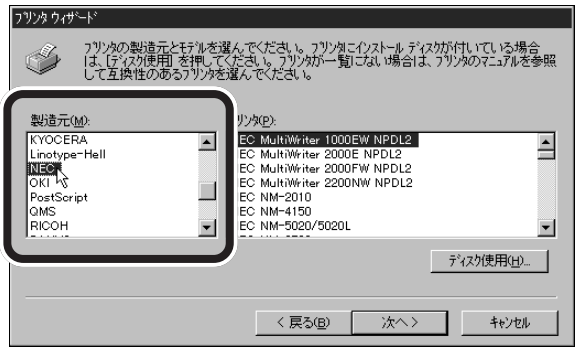
こんなときは

プリンタにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されていなかった場合

Windows 95には、あらかじめ、いろいろなプリンタ用のプリンタドライバが入っています。プリンタにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されていなくても、Windows 95に入っているプリンタドライバを使うことができます。
また、フロッピーディスクやCD-ROMは添付されていても、その中にWindows 95用のプリンタドライバが入っていなかった場合にも、Windows 95に入っているプリンタドライバを使うことができます。
上記のような場合には、次のような方法でプリンタドライバを組み込みます。

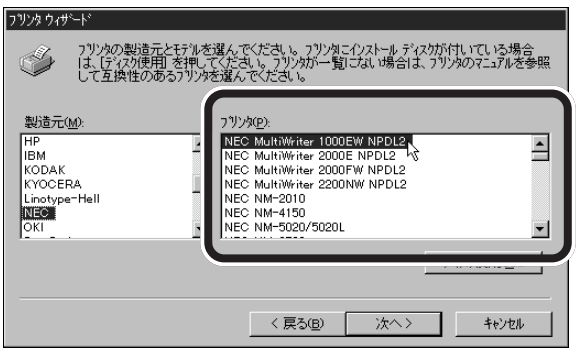
1 p.9 の手順 1 から p.11 の手順 2 までの操作を行う

2 プリンタのメーカー名をクリックする



プリンタのメーカー名とプリンタの機種名については、プリンタのマニュアルをご覧ください。

3 プリンタの機種名をクリックする



お使いのプリンタが、一覧になかった場合には、Windows 95にあなたが使うプリンタのプリンタドライバが入っていないということです。プリンタのメーカー、ご購入元などにお問い合わせください。

4 「次へ」をクリックする

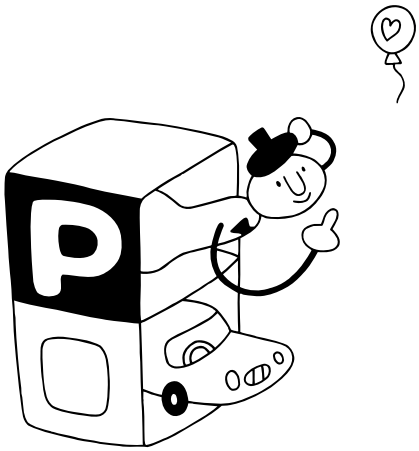
5 引き続き、p.14 の手順 13 からの操作を行う

PART

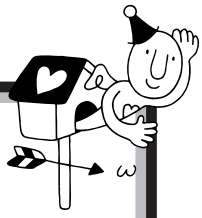
2

USB対応機器を使う

USBコネクタには、すでに接続されているキーボードやPART 1で説明したUSB対応プリンタ以外にも、いろいろな周辺機器を接続して利用することができます。ここでは、USB対応機器の使い方について説明します。



USBの基礎知識



はじめに「USB（ユーエスビー）」の規格について少し勉強しておきましょう。

USBは、Universal Serial Bus（ユニバーサル シリアル バス）の頭文字をとったものです。

USBって何？

USBは、1995年に発表されたパソコン用インターフェイスの新しい規格です。キーボードやプリンタ、プレイスティック、プレイパッド、イメージスキャナなど、いろいろな周辺機器が対応しています。これまでは、周辺機器ごとにプラグやコネクタが異なっていて、接続に悩むことも多かったのですが、このUSBの登場によって、こんな悩みはなくなりました。
また、今後さらに多くの周辺機器がUSBに対応していく予定です。

USBは、原則としてプラグ＆プレイ（→p.38）に対応しています。周辺機器を接続すると、自動的にパソコンとその機器との間で、機器情報のやりとりが行われますので、パソコン側で細かい設定作業をする必要がありません。また、パソコンの電源を入れた状態のまま、周辺機器を接続したり、外したりすることもできます。

用語

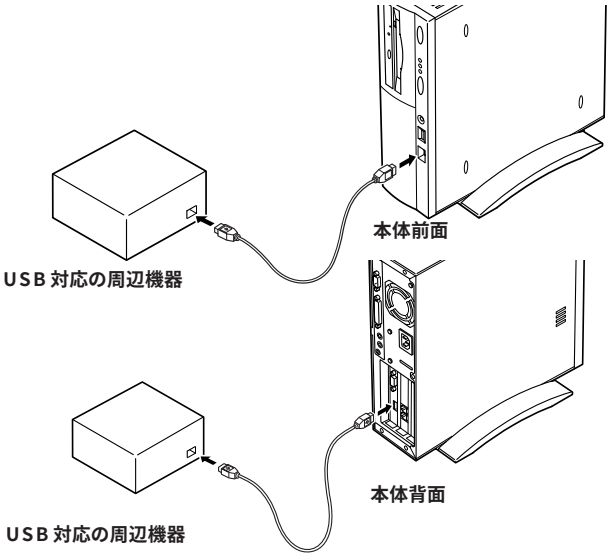
インターフェイス

パソコンと周辺機器を接続するコネクタなど、機器を接続するときに必要な共有される部分のことです。

ただし、周辺機器によっては、プラグ＆プレイに対応していなかったり、パソコン側での設定作業が必要な場合もあります。

USBの接続方法

USBの接続は簡単です。USB接続ケーブルを使って、パソコンと周辺機器を接続するだけです。
このパソコンには、前面と背面に1つずつ、また、VC33／3の場合は、セットの液晶ディスプレイの左側面に2つのUSBコネクタが用意されています。これらのコネクタはまったく同じ仕様なので、使いやすいものを利用してください。もちろん、全部を同時に利用することも可能です。



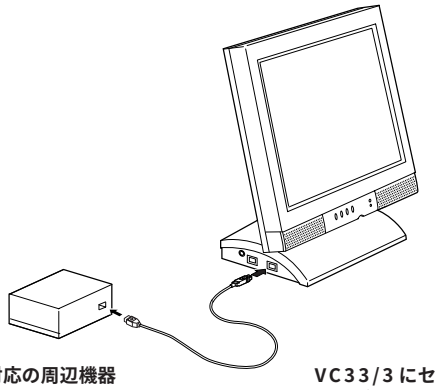
接続の際には、プラグの向きに注意してください。このパソコンに接続するときは、本体前面のUSBコネクタの場合は、⭠ マークを左に向けて接続します。本体背面のUSBコネクタの場合は、モデルによって次のようになります。

- VC33/3、VC26/3、VE26/3の場合は、⭠マークを左に向けて接続します。
- VC23/3、VE23/3の場合は、⭠マークを右に向けて接続します。

セットの15インチ液晶ディスプレイのUSBコネクタの場合は、⭠マークを上に向けて接続します。

チェック!!

USBキーボードを外した状態で他のUSB対応機器を接続しないでください。

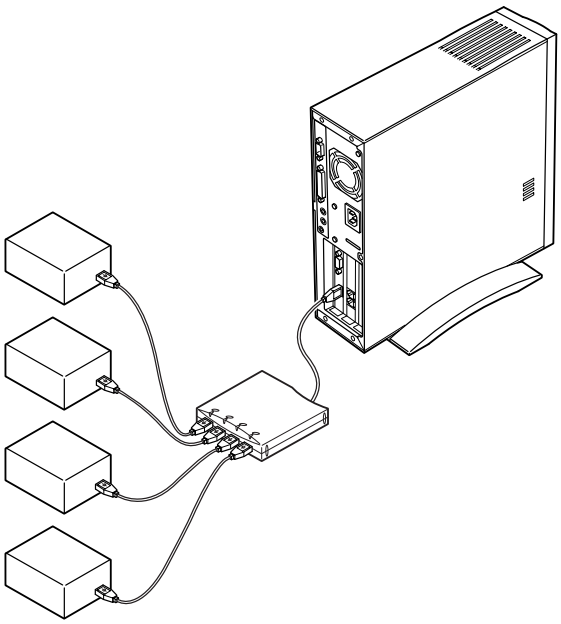


15 インチ液晶ディスプレイのUSB コネクタを使う場合は、本体のUSB コネクタと液晶ディスプレイのUSB コネクタを接続する必要があります。

参照
液晶ディスプレイのマニュアル

USB ハブを使う

本体のUSB コネクタの 1 つには、すでにキーボードが接続されているはずです。ということは、本体の空いているUSBコネクタは、1つだけになります。また、セットの液晶ディスプレイにＵＳＢ コネクタのあるVC33/3の場合、空いているUSBコネクタはあと2つということになります。さらに周辺機器を接続したくなったら、どうするのでしょう。
こんな場合でも USB なら大丈夫です。
別売の USB ハブ（PK-UP002）と呼ばれる装置を使えば、1 つの USB コネクタを 4 つの USB コネクタに分岐することができます。この USB ハブを何台も使えば、規格上 127 台（パソコン 1 台あたり：USB ハブの数も入れて）までの周辺機器を接続することができます。



チェック!!
USB キーボードを USB ハブに接続するときは、あらかじめ USBハブを接続して「汎用 USB ハブ」のインストールを行ってください。
ただし、「汎用 USB ハブ」のインストールを促すメッセージが何も表示されなかったら、この作業は必要ありません。

PK-UP002 の場合、4 つの USB対応機器を接続することができます。

USB ハブの詳しい使い方については、USB ハブのマニュアルをご覧ください。

USB対応機器のご紹介

ここから、いくつかのUSB対応周辺機器と、その簡単な使い方やちょっとしたノウハウを紹介していきます。

イメージスキャナ

イメージスキャナは、撮りためた写真やお気に入りのイラストなどを、パソコンに取り込むための装置です。このパソコンには、フルカラーイメージスキャナ（PK-UP001、PC-IN700/3U）が接続できます。

USBに対応していないイメージスキャナの場合は、SCSIインターフェイス、あるいはシリアルインターフェイスで接続します。接続方法については、イメージスキャナに付属のマニュアルをご覧ください。

参照
SCSIインターフェイスについては
→ PART 8の「SCSIインターフェイス対応機器を使う」

●イメージスキャナを準備する作業の概要

1. イメージスキャナを接続する
2. イメージスキャナに付属している画像取り込み用ソフトをパソコンに組み込む

作業の詳細については、イメージスキャナに付属のマニュアルをご覧ください。

●画像を取り込む作業の概要

1. イメージスキャナの電源が入っていることを確認する
2. 画像取り込み用ソフトを起動する
3. 取り込む原稿をセットする
4. 画像を取り込む
5. 保存する

画像取り込み用のソフトの詳しい使い方については、そのソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

TWAINに対応したイメージスキャナなら、添付されているソフト以外にも、いろいろなTWAIN対応アプリケーションを使って画像の読み込みが可能です。

用語

TWAIN（トゥエイン）

従来、スキャナから画像を取り込むためのソフトは、イメージスキャナの製造元がそれぞれの規格で用意していました。TWAINはその規格を統一したものです。TWAINに対応したソフトは数多く市販されています。

●画像データについての基礎知識

画像の品質はdpi（ディーピーアイ：dots per inch）という単位で表されます。この単位で表される数字のことを「解像度」といいます。
解像度が高い（dpiの数字が大きい）ほど高品質な画像になります。反面、取り込んだ画像データのファイルサイズ（ファイル容量）が大きくなります。ハードディスクに十分空き容量があるかどうか確認することも必要でしょう。

また、画像のデータには、いろいろな規格（ファイル形式）があります。多くの場合、画像を取り込んだ後、保存するときにファイル形式を選びます。Windows 95で最も一般的な形式は、「BMP（ビットマップ）形式」です。また、いろいろなコンピュータ上で比較的汎用性の高い形式は、「TIFF（ティフ）形式」です。他にも「JPEG（ジェイペグ形式）」や「GIF（ジフ）形式」があります。画像データを保存するときには、このいずれかのファイル形式をお使いになることをおすすめします。

●画像データの活用法

・OCRアプリケーションで絵を文字に

例えば、新聞をイメージスキャナで読み込んでも、パソコンでは文字としてではなく、絵として扱われます。「OCR（オーシーアール）アプリケーション」を使えば「絵」として読み込んだ情報を「文字情報」に変換することができます。「文字情報」に変換すれば、ワープロソフトなどを使って文字の修正をすることもできるようになります。

・画像データを加工する

イメージスキャナで取り込んだ画像は、「グラフィックアプリケーション」や「フォトレタッチアプリケーション」と呼ばれるアプリケーションを使って加工することができます。気に入らなかった写真の構図を変えたり、背景を外国の写真に置き換えたり、写真にメッセージを入れたり、楽しい写真をつくることができます。

・電子ファイリング

新聞記事や雑誌の切り抜きは、量が多くなると管理がなかなか大変です。でも、イメージスキャナでいったんデータにしてしまえば、場所をとらず管理も簡単です。

・カラーコピーに使う

イメージスキャナで取り込んだ画像を、そのままカラープリンタで印刷すれば、カラーコピーのできあがりです。

用語

解像度

画像の細かさを示す数値のこと。1インチの中をどれだけに区切っているかをdpiという単位で表します。例えば、300dpiの画像であれば、1インチ四方が縦300×横300＝90000個のドット（画素）に細分されていることになります。

プレイスティック、プレイパッド、ドライビングホイール

ゲームを楽しむときには欠かせないプレイスティック、プレイパッド、ドライビングホイールについて紹介しましょう。このパソコンには、プレイスティック（PK-GP201）、プレイパッド（PK-GP101）、ドライビングホイール（PK-GP301）が接続できます。

●プレイスティック、プレイパッドまたはドライビングホイールを準備する作業の概要

1. プレイスティック、プレイパッドまたはドライビングホイールを接続する
2. プレイスティック、プレイパッドまたはドライビングホイールに付属しているソフトをパソコンに組み込む

必要に応じてコントロールを調整してください。調整方法については、プレイスティック、プレイパッドまたはドライビングホイールのマニュアルをご覧ください。

作業の詳細については、プレイスティック、プレイパッドまたはドライビングホイールに付属のマニュアルをご覧ください。

●プレイスティック、プレイパッドまたはドライビングホイールの使い方

ゲームによって、プレイスティック、プレイパッドやドライビングホイールでコントロールする内容は異なります。詳細については、ゲームに付属のマニュアルをご覧ください。

デジタルビデオカメラ

このパソコンに、デジタルビデオカメラ（PK-MC202）を接続すれば、動きのある映像（動画）を取り込むことができます。

デジタルビデオカメラの接続方法や使用方法については、デジタルビデオカメラに付属のマニュアルをご覧ください。

ISDN ターミナルアダプタ

INS64の電話回線にUSB対応ISDNターミナルアダプタを接続すれば、内蔵の FAX モデムボードを使うよりも、さらに快適にインターネットやパソコン通信を楽しむことができます。

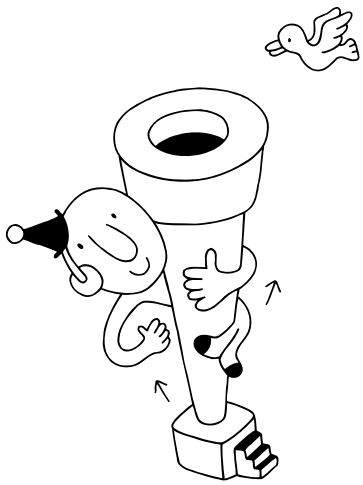
ISDN ターミナルアダプタの接続方法や使用方法については、「PART4 ターミナルアダプタを使う」や、ISDN ターミナルアダプタに付属のマニュアルをご覧ください。

PART

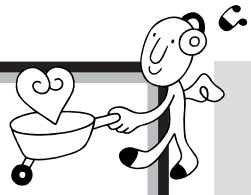
3

オーディオ機器を使う

夜中にパソコンの音を聞いたりするときなど、周囲に音を出したくないときには、ヘッドホンを使いましょう。また、ステレオなどのオーディオ機器を接続することもできます。



ヘッドホンを使う



ヘッドホンでパソコンの音を聞くための接続方法を説明します。

チェック!!

ヘッドホンを故障から守るため、ヘッドホンは本体のボリュームを絞ってから接続してください。

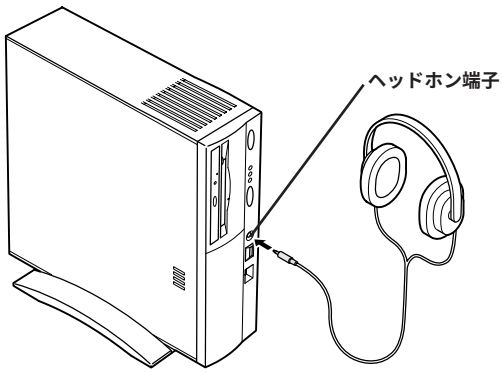
⚠注意

●ヘッドホンを耳にあてたまま接続しないでください。

耳を痛めないため、ヘッドホンを接続するときは、ヘッドホンを耳にあてたまま接続しないでください。

ヘッドホンの接続

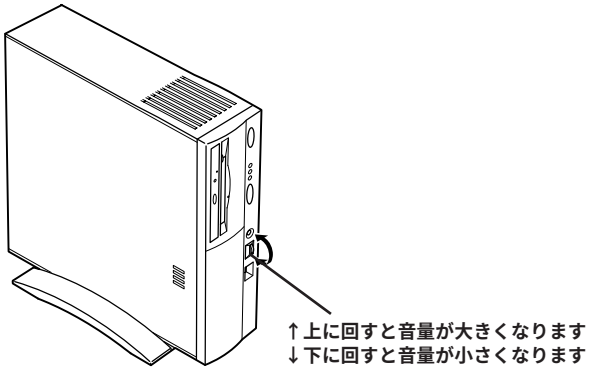
ヘッドホンは本体のヘッドホン端子に接続します。



このパソコンに接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのヘッドホンです。お持ちのヘッドホンの端子が大きくて入らないときは、オーディオショップなどで「ステレオ標準プラグ→ステレオミニプラグ」変換プラグを購入してください。

ヘッドホンの音量を調節する

ヘッドホンの音量は、本体前面のボリュームで調節します。



ヘッドホンを接続すると、内蔵スピーカからは音が出なくなります。

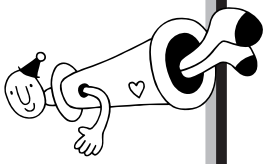
音が大きすぎたり、小さすぎるような場合には、Windows 95の「ボリュームコントロール」の機能で調節してください。

参照

ボリュームコントロールの操作方法については→『リファレンス』PART 5の「サウンド機能」

VC33/3、VE26/3、VE23/35C、VE23/35Dの場合は、ヘッドホンを接続しても、液晶ディスプレイのスピーカや外付けスピーカの音は消えません。
液晶ディスプレイのスピーカまたは、外付けスピーカから音を出したくない場合は、液晶ディスプレイのスピーカまたは外付けスピーカの音量を最小にしてください。

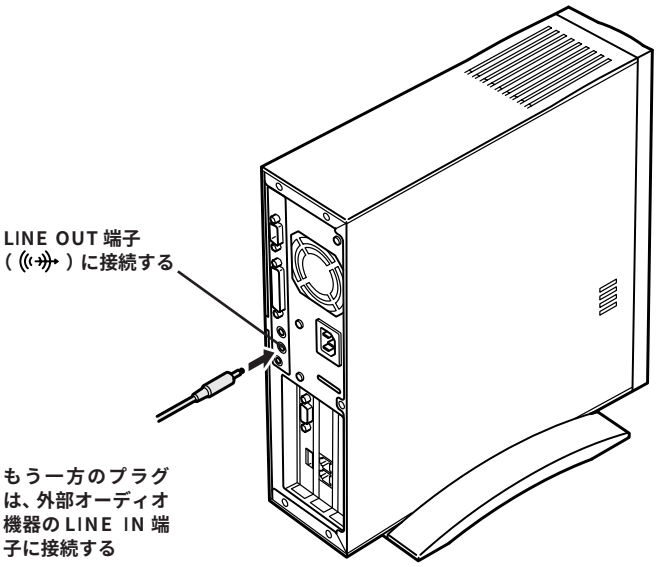
外部オーディオ機器を使う



このパソコンにステレオなどの外部オーディオ機器を接続することができます。

パソコンの音を外部オーディオ機器で聞くとき

パソコンの音を外部オーディオ機器で聞いたり、テープレコーダーに録音するときには、ステレオのミニプラグを持つオーディオケーブルを使って、本体背面のコネクタに、次のように接続します。



●音量の調節

外部オーディオ機器側の音量つまみやボリュームつまみで調節します。

チェック!!

VC33/3に外部オーディオ機器をつなぐときは、本体背面の LINE OUT 端子と液晶ディスプレイの LINE IN 端子をつないでいるオーディオケーブルを取り外してください。

ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、パソコン本体とは別売になっています。電器店などで購入してください。

チェック!!

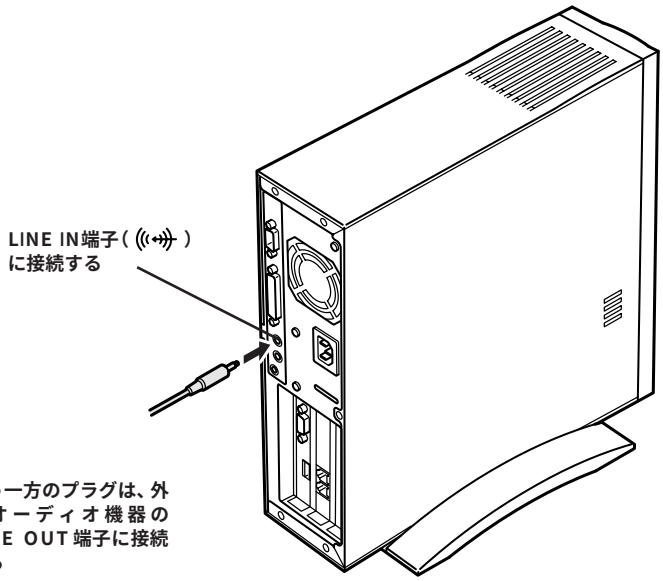
ケーブルを外部オーディオ機器側に接続するときには、必ず「LINE IN」「AUX IN」などの入力端子に接続してください。外部オーディオ機器に「MIC IN」しかない場合は、「抵抗入り」のオーディオケーブルを購入して接続してください。

参照

ボリュームコントロールの操作方法については→『リファレンス』PART 5 の「サウンド機能」

外部オーディオ機器の音をパソコンで聞くとき

外部オーディオ機器の音をパソコンで聞きたいときや、パソコンの録音機能で音声を録音したいときなどには、ステレオミニプラグを持つオーディオケーブルを使って、本体背面のコネクタに、次のように接続します。



●音量の調節

VC26/3、VC23/3、VE23/35A、VE23/3ZAの場合は、本体前面のボリュームで調節できます。
VE26/3、VE23/35C、VE23/35Dの場合は、外付けスピーカのボリュームで調節できます。
VC33/3の場合は、セットの液晶ディスプレイのボリュームで調節できます。本体内蔵スピーカから音が出ている場合は、本体前面のボリュームで調節できます。

また、パソコンに入力される音量が小さすぎたり、大きすぎたりするときは、Windows 95の「ボリュームコントロール」の機能で調節してください。

参照

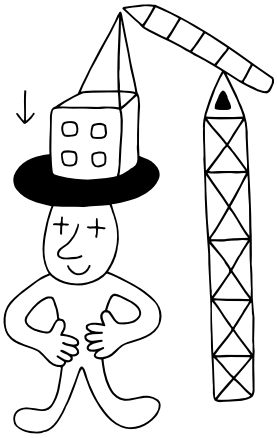
ボリュームコントロールの操作方法については→『リファレンス』PART 5の「サウンド機能」

PART

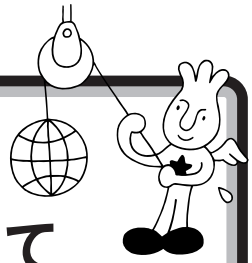
4

ターミナルアダプタを使う

ここでは、ターミナルアダプタを使えるようにするための準備作業を説明します。
パソコンとターミナルアダプタをつないだ後で、設定が必要な場合があります。



ターミナルアダプタについて



ここでは、このパソコンにつなげられるターミナルアダプタについて簡単に説明します。

ターミナルアダプタはISDNを利用するために必要な装置です。
ISDNは、電話やFAX、データ通信などの各種情報通信をデジタル形式で統合し、1つの通信網で接続できるようにしたものです。ISDNを利用するには、DSUとターミナルアダプタの2種類の装置が必要です。
DSUは、通信機器とISDN回線を接続するための終端装置のことで、電話局から送信される回線の中から、使用する回線を拾い出す役割を持っています。1本のISDN回線には、必ず1台のDSUを接続します。ターミナルアダプタの中には、すでにDSUを内蔵しているものもあります。
ターミナルアダプタは、ISDN回線を通して通信するのに必要なもので、DSUとパソコンや電話機などを接続するための装置です。ターミナルアダプタを使えば、次のようなメリット、デメリットがあります。

ISDN（アイエスディーエヌ）は、Integrated Services Digital Networkの頭文字をとったものです。
DSU（ディーエスユー）は、Digital Service Unitの頭文字をとったものです。

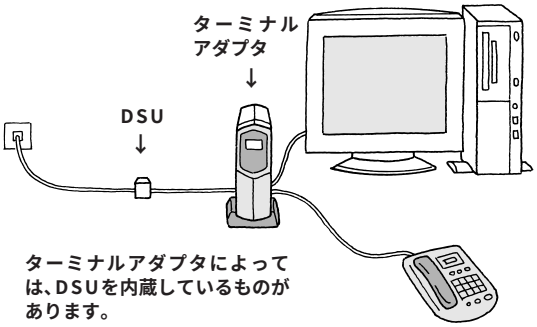
メリット

- 普通の電話回線よりも高速でインターネットに接続できる（使用料金は安くなる）
- ノイズの混入や信号の減衰がない
- 一本の回線で二本分利用できる

ISDN回線を使ってインターネットに接続するには、プロバイダがISDN回線に対応していないと接続できません。

デメリット

- 基本料金が高くなってしまう
- ターミナルアダプタの破損時には、ターミナルアダプタにつないだ電話なども使えなくなってしまう
  （停電時対策のないものでは、停電時にターミナルアダプタにつないだ電話なども使えなくなってしまう）
- 電話番号が変わってしまう場合がある
- ISDN回線をひくときに、工事が必要なことがある

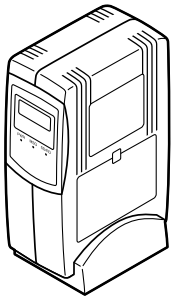


いろいろなターミナルアダプタ

このパソコンには、次のようなターミナルアダプタをつなぐことができます。

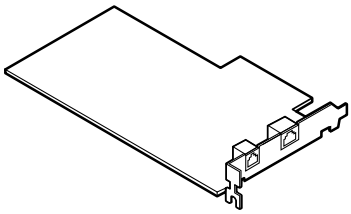
●外付けタイプ

電話やFAXを接続して使うなら、外付けタイプがおすすめです。



●ボードタイプ（ISDNボード）

PCIスロットに差し込んで使います。



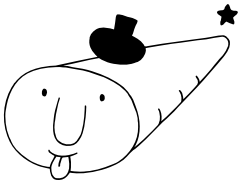
チェック!!

ターミナルアダプタはこの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。これらのターミナルアダプタを購入した時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認するようにしてください。

参照

PCIスロットについては→「PART9 PCIボードを使う」

ターミナルアダプタを接続する前に



ターミナルアダプタを接続する前に準備することや気を付けなくてはならないことを説明します。

接続する前に確認してください

● ISDN 回線が使えるようになっていますか？

電話回線をISDN回線に切り替えた場合、回線が切り替わる日時を確認し、切り替わった後で接続してください。切り替わる前に接続しても使えません。

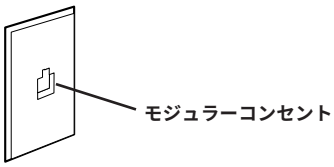
● DSU の必要なターミナルアダプタではないですか？

DSUが内蔵されていないターミナルアダプタの場合、DSUを用意しておいてください。

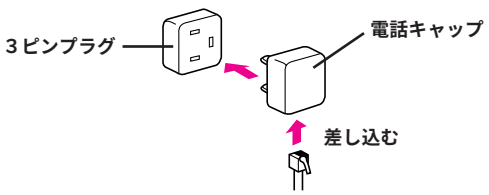
● ISDN 回線用のコンセントの形状を確認してください。

コンセントの形状によっては、そのまま接続できないことがあります。

そのまま接続できます



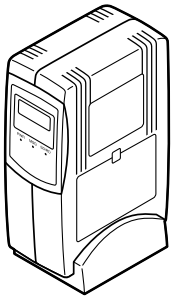
電話キャップを別に購入する必要があります



NTT または販売店に工事を依頼する必要があります

必要なものを用意してください

●ターミナルアダプタ



あらかじめターミナルアダプタのマニュアルをご覧になり、接続以前の準備作業(例えば配送用の保護材を外したりという作業)をすませておいてください。

●ターミナルアダプタのマニュアル

●ターミナルアダプタのケーブル

ターミナルアダプタのケーブルはターミナルアダプタと一緒に購入してください。

シリアルコネクタにつなぐ場合

シリアルコネクタにつなぐ場合は、ケーブルのコネクタの形をよく確認してください。このパソコンのシリアルコネクタは「D-Sub9 ピン」です。ケーブルのパソコン側のコネクタが「D-Sub9ピン」でない場合は、変換コネクタが必要になります。

USB コネクタにつなぐ場合

ターミナルアダプタの機種によって、USB コネクタには接続できない場合もあります。ご購入元、またはターミナルアダプタのマニュアルで確認してください。

ケーブルや変換アダプタはターミナルアダプタに同梱されている場合もありますが、コネクタの形によっては、このパソコンで使えない場合もありますので、お店で確認するようにしてください。

●ターミナルアダプタに添付の CD-ROM またはフロッピーディスク

ターミナルアダプタによってはターミナルアダプタに添付のCD-ROMまたはフロッピーディスクが必要です(必要としない場合もあります)。

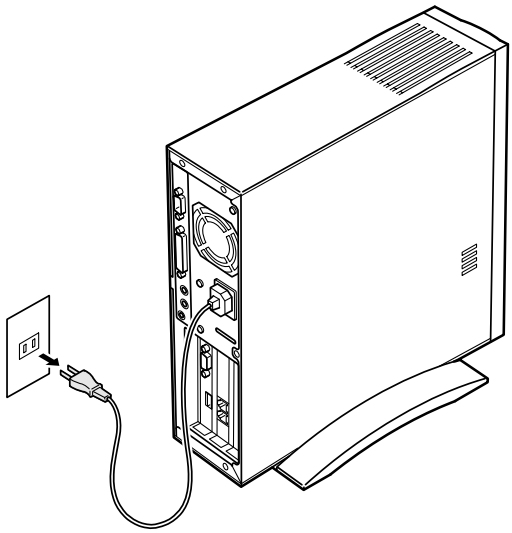
ターミナルアダプタを接続する

ここでは、外付けタイプのターミナルアダプタをパソコンにつなぐ方法を説明します。

シリアルコネクタに接続する場合

1 本体と周辺機器の電源を切る

2 本体と周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜く



3 ターミナルアダプタのケーブルのパソコン側のプラグを、本体背面のシリアルコネクタ（IOIOI）に差し込む

コネクタの形状を確認して、差し込んでください。

ターミナルアダプタ側のコネクタには、抜けを防止するためのネジがついているものもあります。ターミナルアダプタのケーブルを接続するときにはこのネジでプラグを固定してください。

4 ターミナルアダプタのケーブルのもう一方のプラグをターミナルアダプタのコネクタに差し込む

ケーブルの接続方法については、ケーブルまたはターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。

5 ターミナルアダプタをISDN回線に接続する

DSUがターミナルアダプタに内蔵されていない場合、ターミナルアダプタをDSUにつないでから、DSUをISDN回線につないでください。

6 電話機やFAXを使う場合は、ターミナルアダプタとそれらを接続する

7 本体とターミナルアダプタ、周辺機器の電源ケーブルをコンセントに差し込む

8 必要に応じて、ターミナルアダプタのドライバの組み込みやスイッチの設定を行う

詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご確認ください。

USBコネクタに接続する場合

1 ターミナルアダプタに添付されているマニュアルをよく読んで、必要な準備を行う

USB対応ターミナルアダプタは、パソコンの電源が入っている状態で接続や取り外しができます。

ケーブルの接続方法については、ケーブルまたはターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。
USBコネクタは、本体の前面と背面に1つずつ用意されています。空いている方のコネクタに接続してください。VC33/3ではセットの液晶ディスプレイのUSBコネクタを使うことができます。また、別売のUSBハブを利用すれば、USBコネクタを増やすことができます。

2 ターミナルアダプタのUSBケーブルのパソコン側のプラグを、本体のUSBコネクタに差し込む

参照
USBハブについては→ PART2の「USB対応機器を使う」

3 ターミナルアダプタのＵＳＢケーブルのもう一方のプラグをターミナルアダプタのコネクタに差し込む

4 ターミナルアダプタをISDN回線に接続する

DSUがターミナルアダプタに内蔵されていない場合、ターミナルアダプタをDSUにつないでから、DSUをISDN回線につないでください。

5 電話機やＦＡＸを使う場合は、ターミナルアダプタとそれらを接続する

6 ターミナルアダプタの電源ケーブルをコンセントに差し込む

7 必要に応じてドライバなどソフトの設定や、スイッチの設定を行う

詳しくはターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。

これで、ターミナルアダプタの接続はできました。
ターミナルアダプタを使ってインターネットする場合、次の点に注意してください。

●ターミナルアダプタの設定をする前に、内蔵のモデムでオンラインサインアップをする

参照
オンラインサインアップ→『インターネット入門』ＰＡＲＴ３の「BIGLOBEに入会する」

●ドライバを組み込む

詳しくは、PART5の「ドライバについて」や、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。

参照
ドライバの組み込み→PART5の「ドライバについて」、ターミナルアダプタのマニュアル

●インターネットの設定

インターネットの設定については、次の点に注意してください。

- アクセスポイントはISDN回線用のものにする
- 接続の設定で、モデムの選択をするときに、使用するターミナルアダプタを選択する

詳しくは、『インターネット入門』「PART7 すでにインターネットを利用している方へ」や、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。

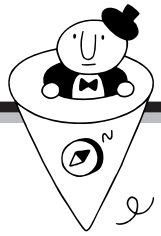
参照
インターネットの設定→
VC33/3、VC26/3、の場合、『インターネット入門』「PART7 すでにインターネットを利用している方へ」
VC23/3、VE26/3、VE23/3の場合、『インターネット入門』「PART8 すでにインターネットを利用している方へ」、ターミナルアダプタのマニュアル

PART

5

パワーアップのための基礎知識

メモリを増設したり、いろいろなボードを取り付けることで、より快適な使用環境を整えることができます。
ここでは、これらの機器を取り付けるときに必要な準備の作業について説明します。



ドライバについて

周辺機器を使うときは、「ドライバ」という専用ソフトウェアが必要となる場合があります。ドライバは、パソコンが周辺機器をコントロールするときに使う大切なソフトです。

周辺機器を追加する場合には、必ずその機器のマニュアルを読み、操作方法やドライバの有無、設定方法などを確認するようにしてください。

ドライバの組み込み方は機器によって異なります。ここでは、一般的な例を紹介します。

プラグ & プレイ対応機器の場合

プラグ&プレイ対応機器の場合、機器を接続してパソコンの電源を入れると、自動的に新しいハードウェアが検出され、設定を行うかどうかのメッセージが表示されます。メッセージに従って操作するだけで設定が完了します。

用語

プラグ & プレイ

周辺機器やPCIボードのドライバなどの設定を自動で行うためのシステムです。

プラグ & プレイ対応機器でも、機器によっては、ドライバがうまく組み込まれない場合があります。この場合には→ PART 11 の「うまく動かないときは」

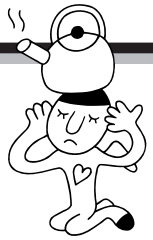
プリンタなどのプラグ & プレイ対応デバイスドライバをインストールした場合は、インストール後、他の操作をせずに、直ちにWindowsを再起動してください。

プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合

プラグ&プレイに対応していない周辺機器の場合、ドライバの組み込みやリソースの設定は手動で行います。
このパソコンや周辺機器に付属のマニュアル、Readmeファイルを読みながら、確実に設定を行ってください。

周辺機器によっては、周辺機器側での変更（スイッチ等）が必要な場合があります。

機器を取り付けるときのご注意



本体を開けて、機器を取り付けるときには、次の点にご注意ください。

⚠警告

感電注意

雷が鳴り出したら、パソコンや電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意

感電注意

濡れた手で触らないでください。

電源ケーブルがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。

感電注意

電源ケーブルがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。

感電の原因となります。

感電注意

周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグを、コンセントから抜いてください。

パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。

けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

高温注意

このパソコンの使用直後は、CPUやCPUの周辺に触れないでください。

感電注意

CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

発火注意

本体を解体した状態で使用しないでください。

感電や火災の原因となります。

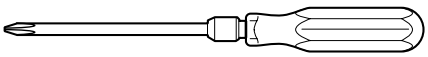
本体の開け方と閉め方

メモリや増設 VRAM ボードを増設したり、いろいろなボードをパソコンに組み込むときには、本体のルーフカバー（本体上面をおおっているカバー）やフロントマスク（本体の前面のカバー）、ケーブルカバー（本体内のケーブルを保護するカバー）を外す作業が必要となります。ここでは、これらの作業を説明します。

用意するもの

●プラス（＋）ドライバー

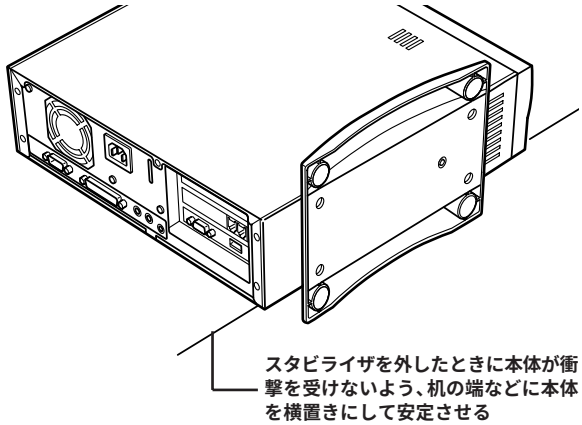
ネジ山に合った先端のものを使ってください



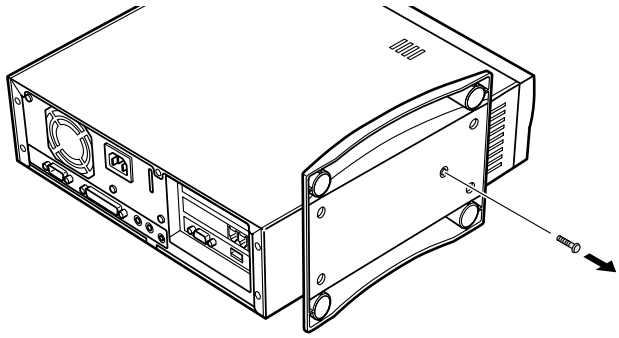
ルーフカバーの外し方

1. 本体と、スピーカなど周辺機器の電源を切る
2. 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く
3. 接続されているケーブルを本体からすべて取り外す

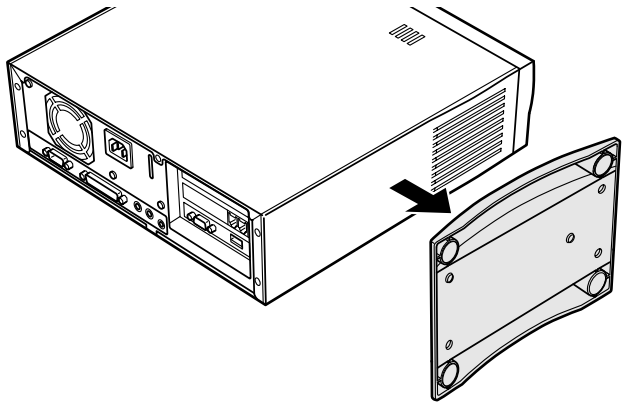
4 **本体の左面（正面から見て左側）が上になるように、静かに横に倒す**



5 **本体底面のネジを 1 本外す**



6 **スタビライザを取り外す**



本体を倒すときは、机やテーブルなどを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や綿の布などを敷いておくことをおすすめします。

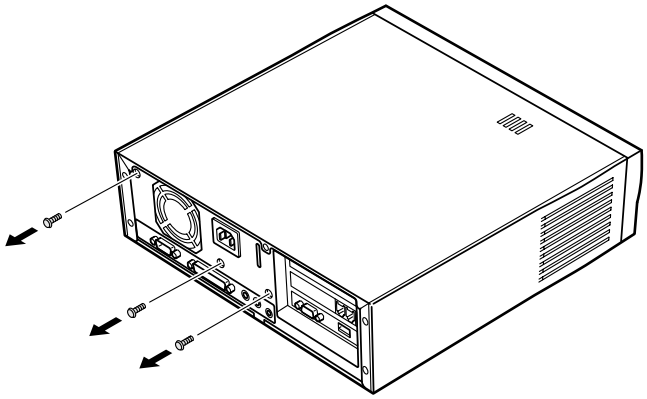
チェック!!

スタビライザを落下させないよう、スタビライザを手に持って取り外してください。

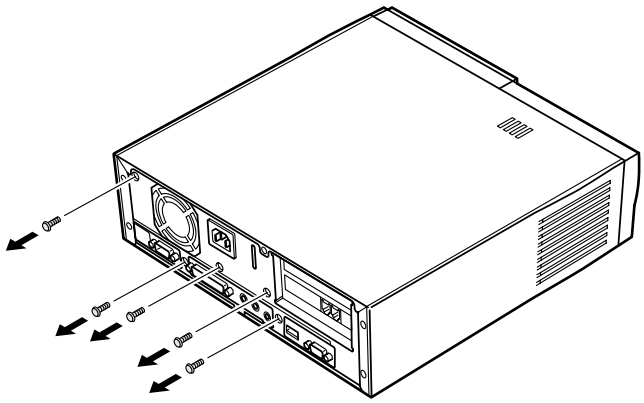
外したネジをなくさないように、気をつけてください。

7 本体背面のネジを外す

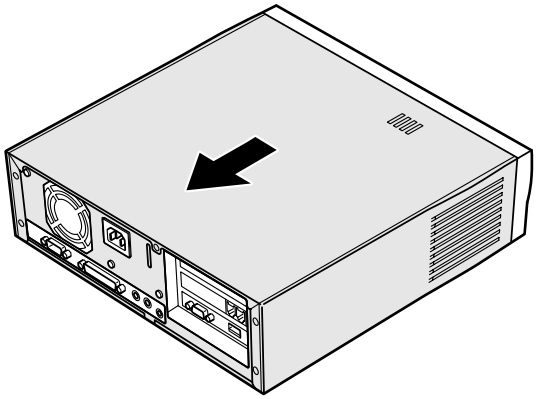
VC33/3、VC26/3、VE26/3 の場合、３本のネジを外してください。



VC23/3、VE23/3 の場合、5 本のネジを外してください。



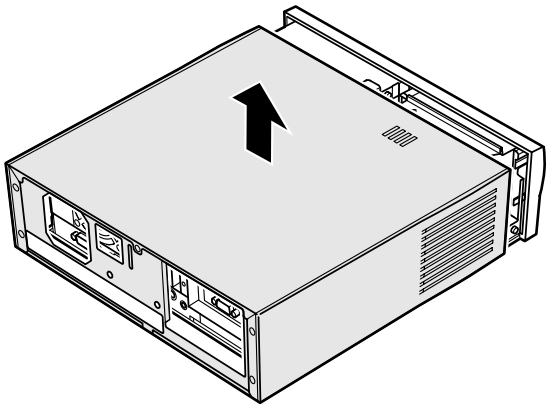
8 ルーフカバーを少し後ろにずらして



チェック!!

外したネジをなくさないように、気をつけてください。

9 スソを左右に広げながら、ゆっくり上方向に持ち上げて取り外す

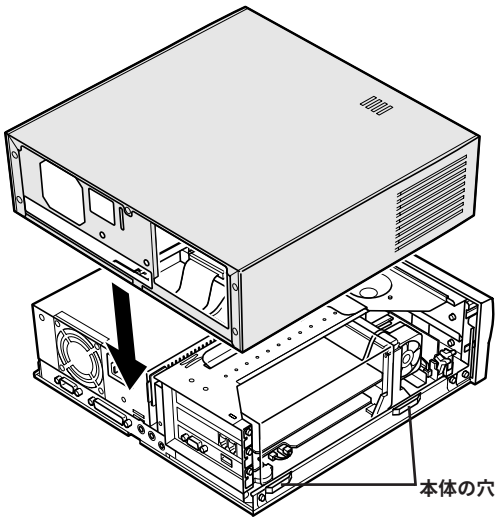


ルーフカバーの取り付け方

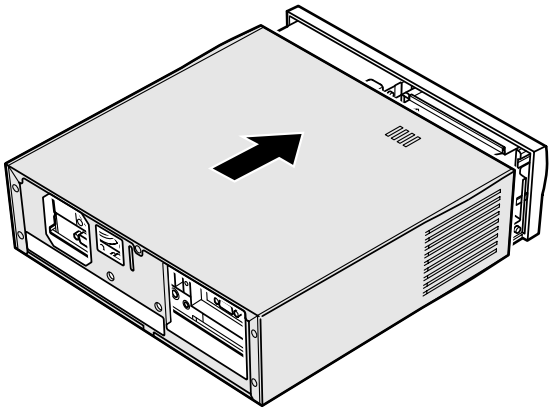
機器の取り付けが終って、カバーを取り付けるときは、外すときの逆の順番で作業を進めてください。
ルーフカバーに続いて、フロントマスクやケーブルカバーも外して作業をした場合には、必ず先にそれらを取り付けてからルーフカバーを取り付けてください。

チェック!!
このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。

1 ルーフカバーのスソを左右に広げながら、ルーフカバー裏側のツメと本体の穴を合わせる

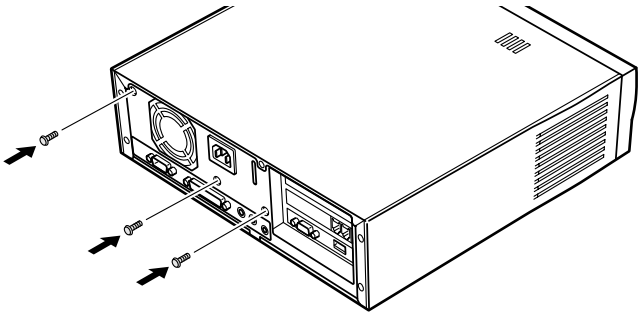


2 ルーフカバーを本体前面側にスライドする

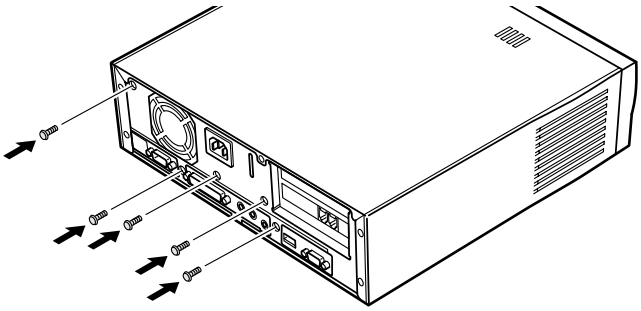


3 本体背面にネジで固定する

VC33/3、VC26/3、VE26/3の場合、3本のネジで固定してください。



VC23/3、VE23/3 の場合、5 本のネジで固定してください。

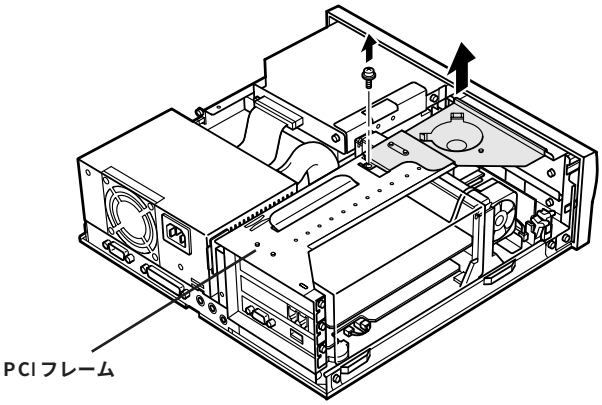


4 スタビライザをもとどおり取り付ける

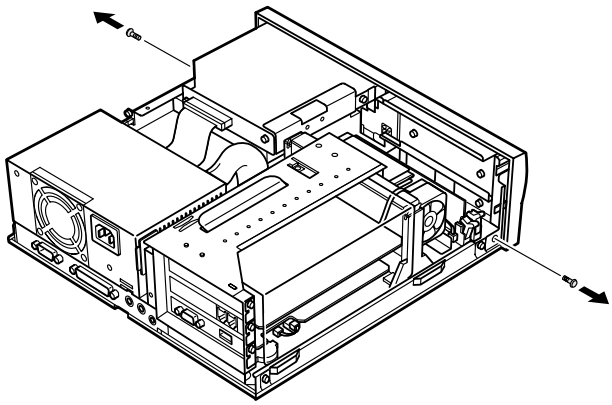
フロントマスクの外し方

1 ルーフカバーを取り外す

2 ネジ 1 本を外し、内蔵スピーカを取り外す



3 本体両側のネジ 2 本を外す



参照

ルーフカバーの取り外し方については→「ルーフカバーの外し方」

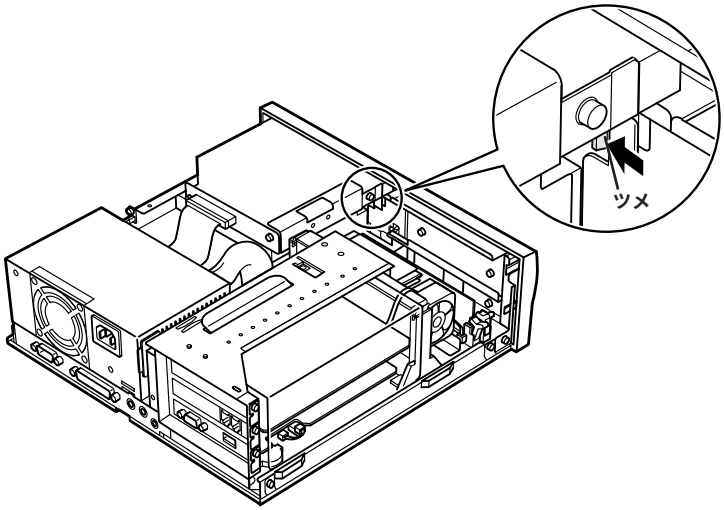
チェック!!

- VE26/3、VE23/35C、VE23/35D には内蔵スピーカがないので、手順 2 の作業は必要ありません。
- 内蔵スピーカは PCI フレームの上に置き、スピーカケーブルをひっぱらないようにしてください。

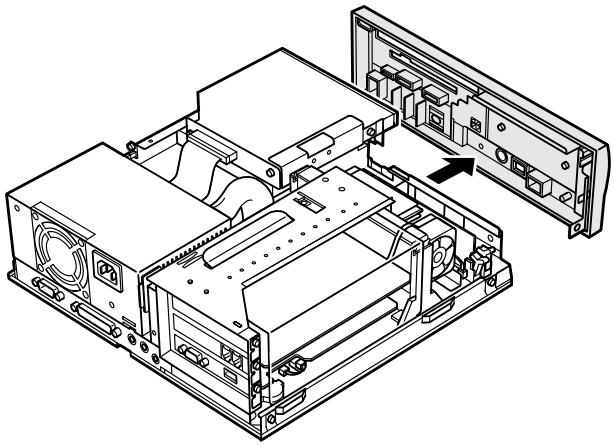
チェック!!

外したネジをなくさないように、気をつけてください。

4 図のツメをドライバの先などで軽く押し、引っかかりを外す



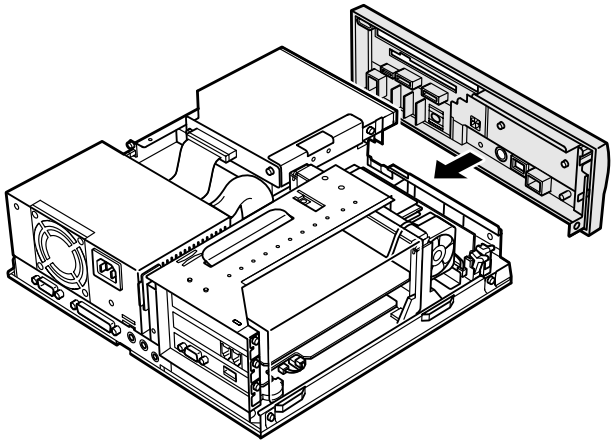
5 フロントマスクをゆっくり手前に取り外す



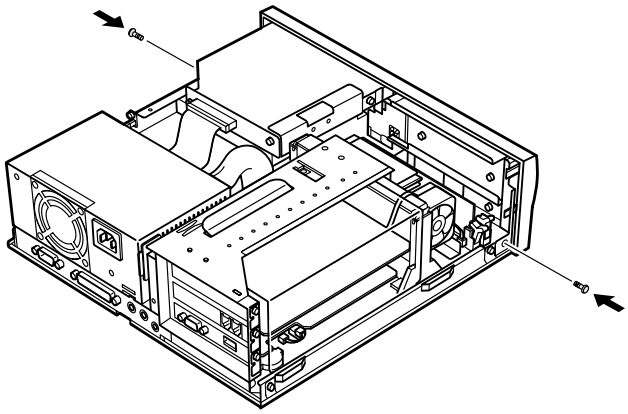
フロントマスクの取り付け方

機器の取り付けが終って、フロントマスクを戻すときは、外すときの逆の順番で作業を進めてください。
特に、フロントマスクのツメをきちんとはめ込むことを忘れないようにしてください。

1 フロントマスク裏側にあるツメと本体の穴を合わせて取りつける



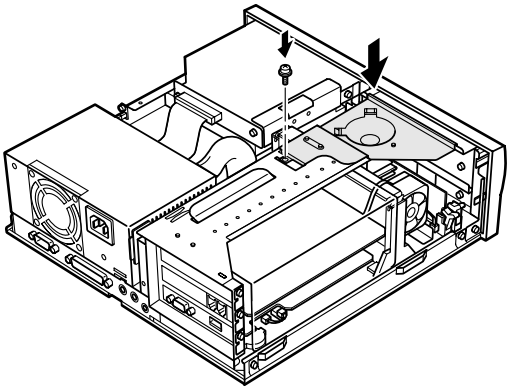
2 本体両側にネジ 2 本で固定する



チェック!!
内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。

フロントマスク裏側の下の方にあるツメをはじめに合わせ、次に上の方にあるツメを合わせると、うまく取りつけられます。

3 本体に内蔵スピーカを取り付け、ネジ 1 本で固定する

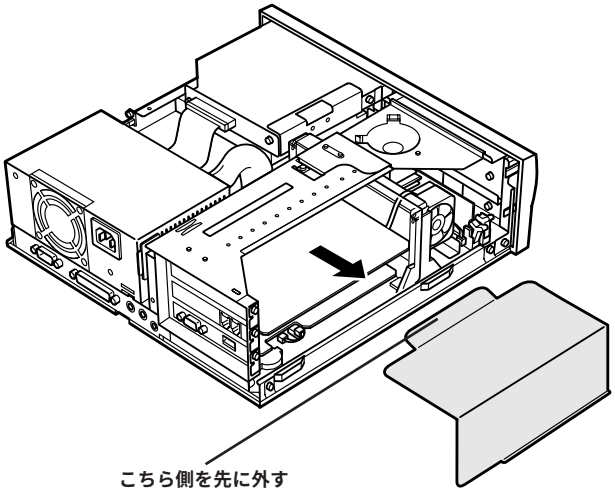


チェック!!
VE26/3、VE23/35C、VE23/35D には内蔵スピーカがないので手順 3 の作業は必要ありません。

ケーブルカバーの外し方

1 ルーフカバーを取り外す

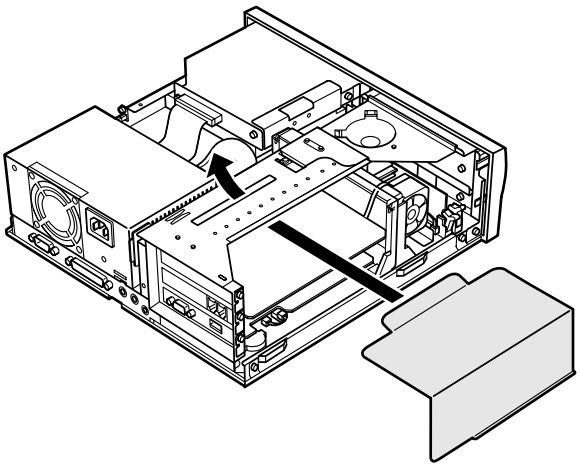
2 ケーブルカバーを手前に引いて取り外す

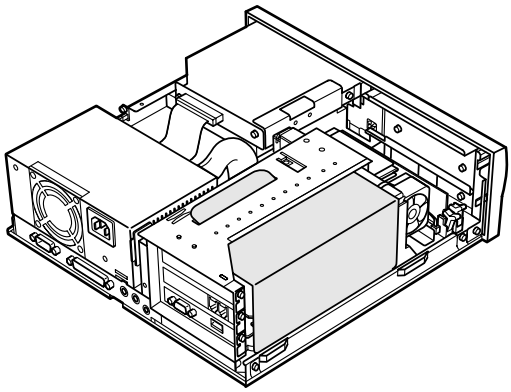


机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や綿の布などを敷いておくことをおすすめします。

ケーブルカバーの取り付け方

機器の取り付けが終わって、ケーブルカバーを戻すときは、外すときの逆の順番で作業を進めてください。





チェック!!

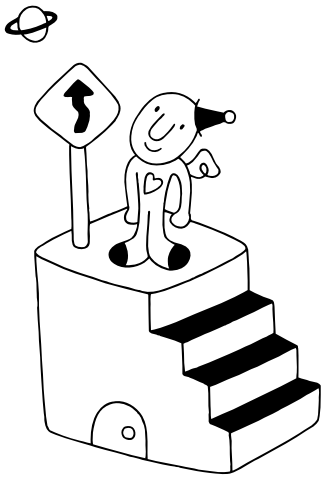
このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。

PART

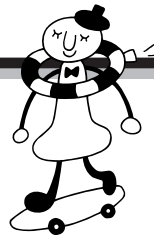
6

メモリを増やす

メモリは、パソコンで作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいのと同じように、メモリの量が多いとパソコンの「作業机」も広くなり処理がしやすくなります。一度に複数のアプリケーションを使っているときなどに、パソコンの処理速度が遅いと感じるようであれば、メモリを増やしてみましょう。



メモリについて



ここでは、メモリに関する基本的な考え方や、対応している増設 RAM サブボードの種類などを説明します。

メモリを増やすには

メモリを増やすには次のような手順が必要です。

1 どのくらいメモリを増やすかを決める

最大 256（機種によっては 160）M バイトまで増やせます。

2 必要なものを準備する

必要な増設 RAM サブボード等を準備します。

3 増設 RAM サブボードを取り付ける

詳しくは、PART 6「増設RAMサブボードの取り付けと取り外し」をご覧ください。

4 メモリは増えたかどうか確認する

増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているか確認します。
詳しくは、PART 6「増やしたメモリを確認する」をご覧ください。

参照
メモリの増やし方→ PART 6「メモリの増やし方の例」

参照
増設 RAM サブボードの取り付け方→PART 6「増設RAMサブボードの取り付けと取り外し」

参照
メモリの確認→ PART 6「増やしたメモリを確認する」

このパソコンで使える増設 RAM サブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設 RAMサブボード」というボードを使います。
このパソコンでは、「DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設RAMサブボードを使うことができます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M001	32M バイト
PK-UG-M002	64M バイト
PK-UG-M003	128M バイト

増設RAMサブボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAM サブボード」といいます。

DIMM（ディム）は、Dual Inline Memory Moduleの頭文字をとったものです。

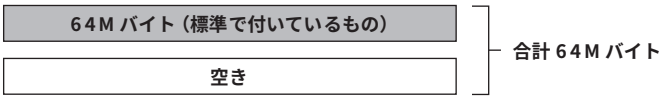
チェック!!

このパソコンでは、「SIMM（シム）」と呼ばれるタイプの増設 RAM サブボードは使用できません。まちがって購入しないように注意してください。

メモリの増やし方の例

●VC33/3、VC26/3、VE26/3の場合

このパソコンには、RAMサブボード（DIMM）を差し込むコネクタ（スロット）が、2つ用意されています。標準では、この内の1つのコネクタに64Mバイトの RAMサブボードが差し込まれています。

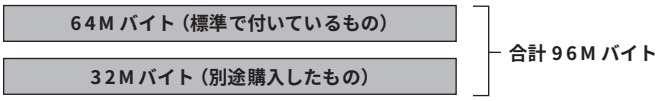


空いている残りの1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMサブボードを、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。
メモリは、最大で256Mバイト（128Mバイトの増設RAMサブボード×2枚）まで増やすことができます。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

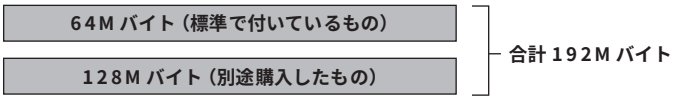
・例1：96Mバイトにする場合

空いているコネクタの1つに32Mバイトの増設RAMサブボードを追加すれば、標準で入っている64Mバイトのメモリと合わせて96Mバイトのメモリにすることができます。



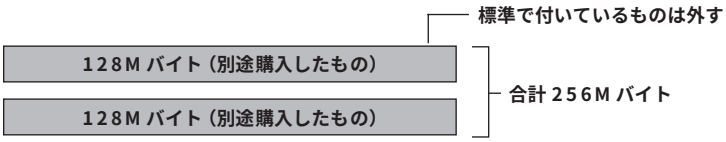
・例2：192Mバイトにする場合

128Mバイトの増設RAMサブボードを1枚追加します。



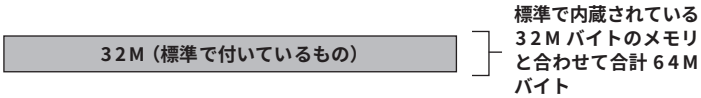
・例3：256Mバイト（最大）にする場合

標準で付いているRAMサブボードを外し、128Mバイトの増設RAMサブボードを2枚追加します。



● VC23/3、VE23/35C、VE23/35D、VE23/35Aの場合

このパソコンには、RAMサブボード（DIMM）を差し込むコネクタ（スロット）が、1つ用意されています。標準では、このコネクタに32Mバイトの RAMサブボードが差し込まれています。

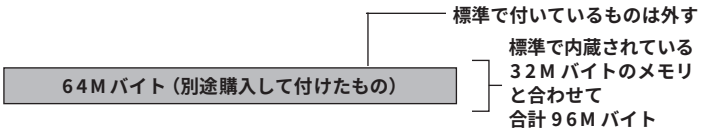


標準で付いているRAMサブボードを、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることで、メモリを増やします。
メモリは、最大で160Mバイト（標準で内蔵されている32Mバイト＋128Mバイトの増設RAMサブボード×1）まで増やすことができます。

このパソコンには標準で差し込まれているRAMサブボード以外に32Mバイトのメモリが内蔵されています（取り外しはできません）。
実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

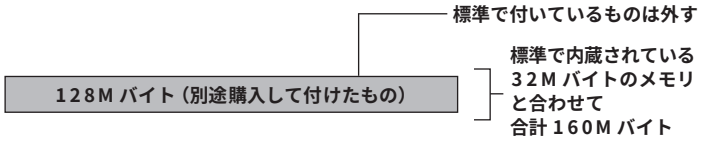
・例1：96Mバイトにする場合

標準で付いているRAMサブボードを外し、コネクタに64Mバイトの増設RAMサブボードを差し込めば、標準で内蔵されている32Mバイトのメモリと合わせて96Mバイトのメモリにすることができます。



・例2：160Mバイト（最大）にする場合

メモリを160Mバイトにするときには、128Mバイトの増設RAMサブボードを1枚差し込みます。



●VE23/3ZAの場合

このパソコンには、RAMサブボード（DIMM）を差し込むコネクタ（スロット）が1つ用意されています。
空いている1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。
メモリは、最大160Mバイト（標準で内蔵されている32Mバイト＋128Mバイトの増設RAMサブボード×1）まで増やすことができます。

・例1：64Mバイトにする場合

コネクタに32Mバイトの増設RAMサブボードを差し込めば、標準で内蔵されている32Mバイトのメモリと合わせて64Mバイトのメモリにすることができます。

32Mバイト（別途購入して付けたもの）

標準で内蔵されている32Mバイトのメモリと合わせて合計64Mバイト

・例2：96Mバイトにする場合

メモリを96Mバイトにするときには、64Mバイトの増設RAMサブボードを1枚差し込みます。

64Mバイト（別途購入して付けたもの）

標準で内蔵されている32Mバイトのメモリと合わせて合計96Mバイト

・例3：160Mバイト（最大）にする場合

メモリを160Mバイトにするときには、128Mバイトの増設RAMサブボードを1枚差し込みます。

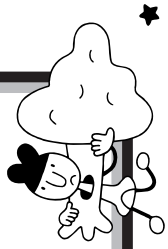
128Mバイト（別途購入して付けたもの）

標準で内蔵されている32Mバイトのメモリと合わせて合計160Mバイト

このパソコンには32Mバイトのメモリが内蔵されています。（取り外しはできません）。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し



ここでは、増設 RAM サブボード（RAM サブボード）の取り付け方と、取り外し方を説明します。

⚠注意

感電注意

発火注意

増設RAMサブボードは以下の手順に従って正しく取り付けてください。

正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因となります。

ボードを取り扱うときに気をつけること

増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金属（アルミサッシやドアのノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

増設 RAM サブボードの取り付け方

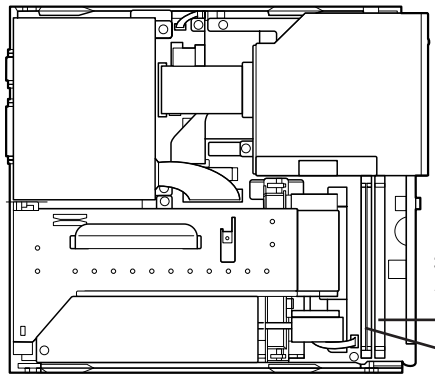
1 正しい手順で本体のルーフカバーを外す

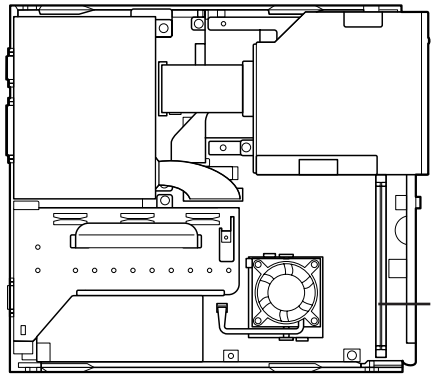
参照

ルーフカバー、フロントマスクの外し方については→ PART 5 の「本体の開け方と閉め方」

2 正しい手順で本体のフロントマスクを外す

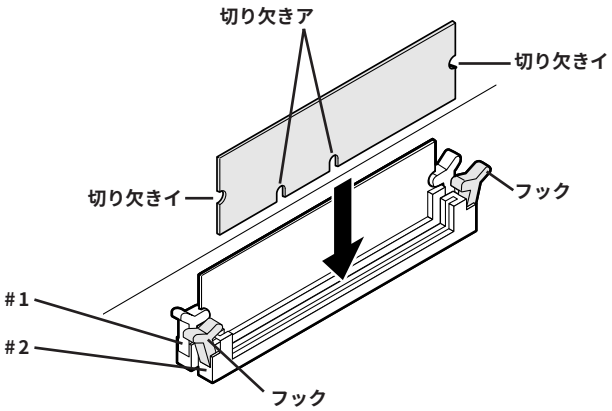
ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。



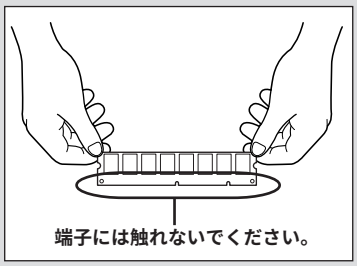


3 **ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く**

4 **切り欠きアの方向に注意して、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む**



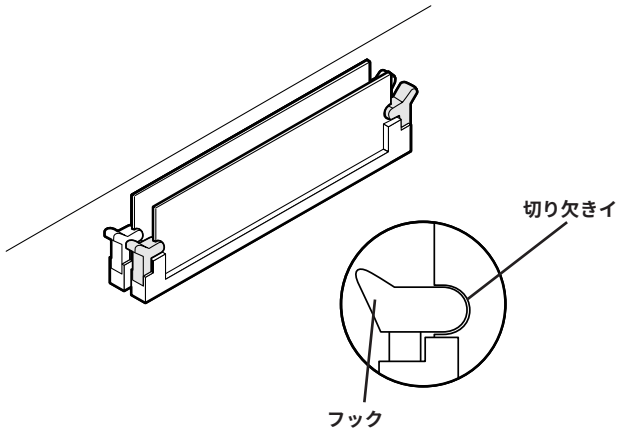
増設RAMサブボードは、両手で持ってください。



- 増設RAMサブボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

コネクタの溝とボードの切り欠きアの位置を確認してから差し込んでください。

5 コネクタ両側のフックが、切り欠きイに引っかかるまで、しっかり差し込む



チェック!!
しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

6 正しい手順で本体のフロントマスクを取り付ける

7 正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

参照
フロントマスク、ルーフカバーの取り付け方については→ PART 5 の「本体の開け方と閉め方」

増設 RAM サブボードの取り外し方

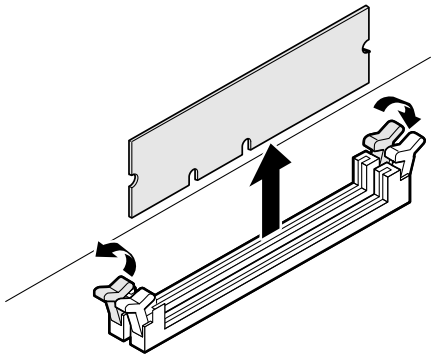
標準で取り付けられている RAM サブボードも、同じ手順で取り外します。

1 正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2 正しい手順で本体のフロントマスクを外す

参照
ルーフカバー、フロントマスクの外し方については→ PART 5 の「本体の開け方と閉め方」

3 取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりと、ボードを垂直に引き抜く



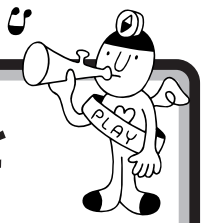
チェック!!
フックを開きすぎないように気をつけてください。

チェック!!
メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、大切に保管してください。

4 正しい手順で本体のフロントマスクを取り付ける

5 正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

参照
フロントマスク、ルーフカバーの取り付け方については→ PART 5 の「本体の開け方と閉め方」



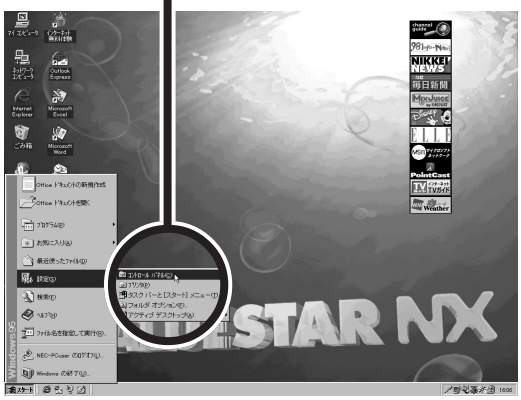
増やしたメモリを確認する

増やしたメモリが認識されたかどうかを確認します。

確認する操作

1 「スタート」をクリックし、「プログラム」、「CyberTrio-NX」の順にポインタを合わせ、「Go to アドバンストモード」をクリックする

2 「スタート」をクリックし、「設定」にポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックする



3 「システム」をダブルクリックする

4 メモリ容量を確認する

ここにメモリ容量が表示されます

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

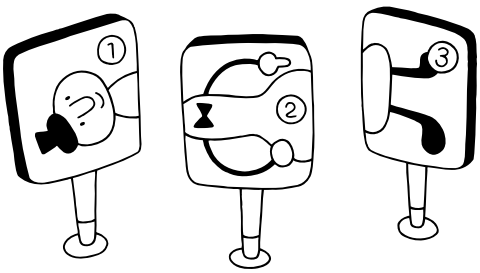
- **メモリが正しく取り付けられているか？**
- **このパソコンで使える増設 RAM サブボードを取り付けているか？**

PART

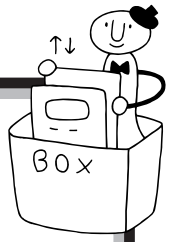
7

ハードディスクを増設する

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしたりしていくと、だんだんハードディスクがいっぱいになってきます。もっとたくさんの容量が必要な場合はハードディスクを増設します。ハードディスクは、外部機器として接続します。



外付け用のハードディスクを増設する



このパソコンでハードディスクを増設するには、外付け用のハードディスクを使います。外付け用のハードディスクはSCSIインターフェイスボードを使って接続します。

外付け用のハードディスクの接続に必要なもの

外付け用のハードディスクを接続するためには、次のようなSCSIインターフェイスボードが必要です。

Ultra Wide SCSIインタフェースボード（PK-UG-X007）
Ultra SCSIインタフェースボード（PK-UG-X014）

また、外付け用のハードディスクを接続するためには、別途SCSI機器接続ケーブルが必要です。SCSI機器接続ケーブルのコネクタには、いくつかの種類があります。SCSIインターフェイスと外付け用のハードディスクのコネクタ形状を確認し、適切なSCSI機器接続ケーブルを用意してください。

外付け用のハードディスクを増設するときには、必ずハードディスクに付属のマニュアル、SCSIインターフェイスボードに付属のマニュアルもご覧ください。

外付け用のハードディスクの接続方法

1 本体の電源が切れていることを確認する

2 正しい手順で、本体にSCSIインターフェイスボードを取り付け、必要な設定を行う

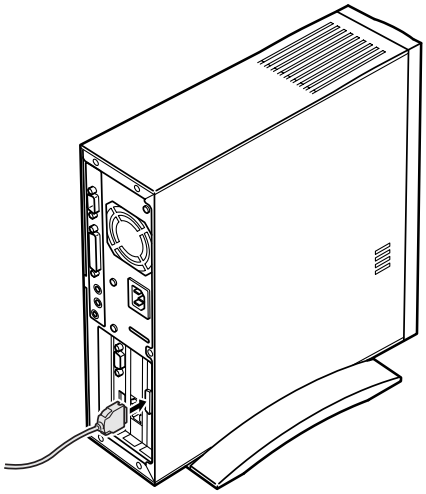
3 増設ハードディスクのSCSI IDを確認する

チェック!!
ハードディスクを接続するときは、ハードディスクに衝撃を加えないように十分取り扱いに気をつけてください。

参照
SCSIインターフェイスボードの取り付け方や設定の方法については→PART 8の「SCSIインターフェイス対応機器を使う」

SCSI機器は、SCSI IDという0～7の番号で装置を識別します。ハードディスクには、この番号を設定するボタンが付いていますので、7を除く0～6の番号（他のSCSI機器も接続している場合には、それらの機器と重複しない番号）に設定してください。

4 本体に取り付けたSCSIインターフェイスボードのSCSIコネクタにSCSI機器接続ケーブルのプラグを差し込む

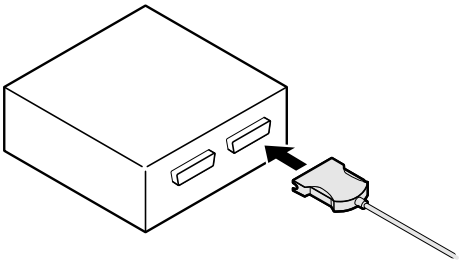


チェック!!

SCSI機器接続ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。コネクタの向きをよく確認し、無理に押し込まないようにしてください。

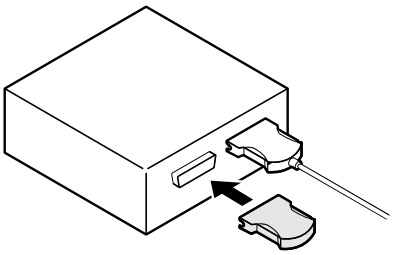
コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

5 増設ハードディスクのSCSIコネクタに、SCSI機器接続ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



ハードディスクのSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使ってもかまいません。

6 増設ハードディスクの残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む



参照

ターミネータについては→PART 8の「SCSIに関する基礎知識」

7 必要に応じて、フォーマットの作業に進む

SCSIハードディスクのフォーマットの作業については、ハードディスクに付属のマニュアルもご覧ください。

ハードディスクをフォーマットする

一般的に、ハードディスクは取り付けただけでは使えません。情報を保存するためにハードディスクの区画整理をして、番地をつける「フォーマット作業」が必要です。

フォーマットについて

ハードディスクのフォーマットは次の手順で行います。

1. 領域を削除する

増設したハードディスク内のすべての領域をいったん削除します。

2. 領域を作成する

パソコンで使用するハードディスクの領域を設定します。ひとつのハードディスクをいくつかの領域（パーティション）に分けて別のドライブのように扱うことができます。

3. ドライブをフォーマットする

データをハードディスクに保存できるように区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。

4. スキャンディスク

ハードディスクに壊れている部分がないかどうか、問題なく使えるかどうかをチェックします。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

フォーマットには時間がかかります。そのため、フォーマット済みの状態で販売しているハードディスクもあります。この場合にはフォーマットの作業は必要ありません。ハードディスクのマニュアルで確認してください。

チェック!!

- すでに使用されているハードディスクをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。必要なデータは、フロッピーディスク、MOディスクなどにバックアップしておいてください。
- すでにPC-9800シリーズ用にフォーマットされているときでも、もう一度領域を作成しフォーマットする必要があります。
- ハードディスクのボリュームラベルが全角文字または半角カタカナで入力されているときは、領域の削除 ができません。「マイコンピュータ」でハードディスクドライブのアイコンを右クリ ックして、「プロパティ」で半角英数字に入力し直すかボリュームラベルを削除して ください。

参照

スキャンディスクについて→『リファレンス』PART 5の「ハードディスク」

増設したドライブのドライブ名について

ハードディスクを増設したときに、通常（基本 MS-DOS 領域を作成しない場合）は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクの最後のドライブ名に続けてドライブ名が割りあてられます。

基本 MS-DOS 領域を作成しない場合

	内蔵ハードディスク		増設したハードディスク	
増設前	C	D		
増設後	C	D	E	F

ハードディスクの領域を確保するときに基本MS-DOS領域を作成した場合は、複数の領域を作成したドライブのドライブ名が変更されます。
以下の順序でドライブ名が割り当てられますので、ハードディスクを増設した後は、ハードディスクのドライブ名を再度確認してください。

① 内蔵ハードディスクの先頭ドライブ
② 増設したハードディスクの先頭ドライブ
③ 内蔵ハードディスクの残りのドライブ
④ 増設したハードディスクの残りのドライブ

基本 MS-DOS 領域を作成する場合

	内蔵ハードディスク		増設したハードディスク		
増設前	C	D			
増設後	C	E	D	F	G

領域を削除する

1 パソコンの電源を入れる

Windows 95 が起動する。

2 「スタート」をクリックし、「プログラム」にポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックする

「C:\WINDOWS>」が表示される。

3 (8.4G バイト以下のハードディスクの場合)
キーボードからFDISK /x と入力し、【Enter】を押す
(8.4G バイトを超えるハードディスクの場合)
キーボードから FDISK と入力し、【Enter】を押す

「大容量ディスクのサポートを可能にしますか(Y/N)」と表示される。

4 キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す

FDISK オプション画面が表示される。

5 キーボードから 5 を入力し、【Enter】を押す

「ハードディスクドライブの番号を入力してください」と表示される。

6 ハードディスクドライブの番号を入力し、【Enter】を押す

FDISKオプション画面に戻り、「現在のハードディスク」の番号が変更されます。

7 キーボードから 3 を入力し、【Enter】を押す

領域削除の画面が表示される。

外付け用のハードディスクの場合には、パソコンの電源を入れる前にハードディスクの電源を入れてください。

チェック!!
すでに使用されているハードディスクの領域を削除すると、その中に保存されていた全てのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

チェック!!
手順 3 でのハードディスクの容量は 1G バイト =1,000,000,000 バイト換算です。

Y を選択すると、FAT32 でフォーマットされます (512M バイト以上の領域)。
N を選択すると、FAT16 でフォーマットされます (2047M バイト以下の領域)。

参照
FAT32については→『困ったときのQ&A』PART3の「FAT32ファイルシステム」について

チェック!!
「1」は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクです。ドライブを間違えないように、十分注意してください。

8 **キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す**

「削除した拡張 MS-DOS 領域のデータはなくなります. 続けますか (Y/N)」と表示される。

9 **キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す**

「拡張 MS-DOS 領域を削除しました.」と表示される。

10 **キーボードの【Esc】を押す**

FDISK オプション画面が表示される。

論理ドライブが設定されているときは、手順 8 の前に 3 を入力し、拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブをすべて削除してください。

チェック!!
FDISKを終了しないで次の手順に進んでください。

領域を作成する

1 キーボードから 1 を入力し、【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示される。

2 キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズを M バイトか全体に対する割合（%）で入力してください．拡張 MS-DOS 領域を作ります」と表示される。

3 キーボードの【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を作成しました．」と表示される。

4 キーボードの【Esc】を押す

「論理ドライブのサイズを M バイトか全体に対する割合（%）で入力してください．」と表示される。

5 サイズを入力して、【Enter】を押す

「論理 MS-DOS ドライブを作成しました．ドライブ名は変更または追加されました」と表示される。

6 拡張 MS-DOS 領域がなくなるまで手順 5 を繰り返し、すべての拡張 MS-DOS 領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示される。

7 キーボードの【Esc】を 3 回押す

「C:\WINDOWS>」の表示に戻る。

チェック!!

領域作成の途中で電源を切ったりすると、ハードディスクが使えなくなってしまうこともありますので、気をつけてください。

「領域を削除する」の手順 4 で N を入力したとき、ひとつの領域の大きさは 2047M バイトまでです。それより大きなハードディスクを使う場合には、領域を分けて作成します。

ここで、新しく作成した論理ドライブ名をメモにひかえておいてください。フォーマットするときに必要です。

参照

ハードディスクの増設によるドライブ名の変更について→ PART 7 の「増設したドライブのドライブ名について」

8 **キーボードから EXIT と入力し、【Enter】を押す**

Windows 95 の画面に戻る。

9 **「スタート」をクリックし、「Windows の終了」をクリックする**

「Windows 95 の終了」画面が表示される。

10 **「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックする**

Windows 95 が再起動する。

ドライブをフォーマットする

続いてWindows 95で、増設したハードディスクをフォーマットします。

データをハードディスクに保存できるように、Windows 95で区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。

1 「マイコンピュータ」をダブルクリックする

2 増設したドライブをクリックする

3 「ファイル」をクリックし、「フォーマット」をクリックする

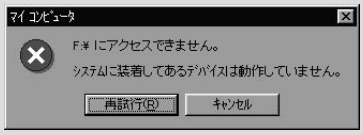
フォーマットの画面が表示される。

4 「通常のフォーマット」をクリックする

チェック!!

すでに使用されているドライブをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

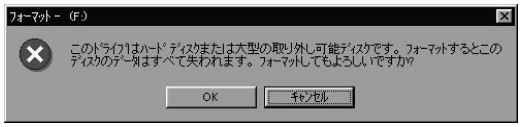
増設したドライブが、どれかわからない場合には、マイコンピュータでめぼしいドライブをダブルクリックしてみてください。増設したハードディスクの場合には、未フォーマットであることを示すウィンドウが表示されます。



このウィンドウが表示されたら、「キャンセル」をクリックし、ウィンドウを閉じてください。

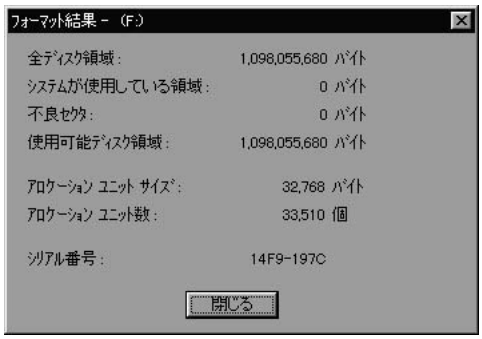
5 「スタート」をクリックする

確認の画面が表示される。



6 「OK」をクリックする

しばらくするとフォーマットが終了し、フォーマットの結果が表示される。



7 「閉じる」をクリックする

スキャンディスクの実行をうながす画面とヘルプが表示される。

8 「OK」をクリックする

9 「フォーマット」の画面をクリックする

10 「閉じる」をクリックする

11 ヘルプの内容にしたがってスキャンディスクを実行する

スキャンディスクは、ハードディスクに壊れている部分がないか、問題なく使えるかをチェックするものです。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

参照

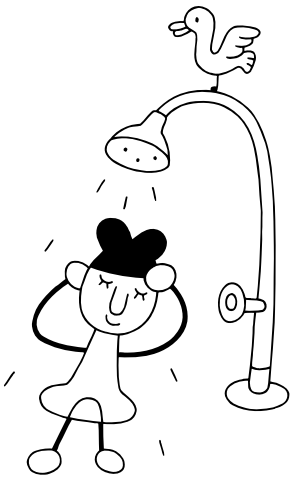
スキャンディスクの操作方法は→『リファレンス』PART5の「ハードディスク」

PART

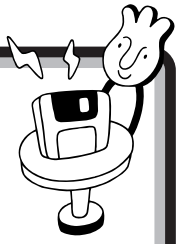
8

SCSIインターフェイス対応機器を使う

このパソコンでSCSI（スカジー）インターフェイスに対応した周辺機器を使うには、SCSIインターフェイスボードが必要です。ここでは、SCSIの基礎知識、SCSIインターフェイスボードの取り付け方、SCSIインターフェイス対応機器を接続する方法を説明します。



SCSIインターフェイスについて



ここでは、SCSIインターフェイスを使って周辺機器を接続するとき、覚えておいて欲しいことを説明します。

SCSI対応機器を接続するために必要なもの

SCSIインターフェイスで周辺機器を接続する場合は、次のSCSIインターフェイスボードを使用します。

Ultra Wide SCSIインタフェースボード（PK-UG-X007）
Ultra SCSIインタフェースボード（PK-UG-X014）

また、SCSI機器を接続するときには、別途SCSIケーブルが必要です。SCSIケーブルのコネクタには、いくつかの種類がありますので、SCSIインターフェイスとSCSI機器のコネクタ形状を確認し、適切なSCSIケーブルを用意してください。

接続できるSCSI対応機器

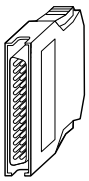
SCSIインターフェイスを使って接続できる機器には、次のようなものがあります。

・ハードディスク
・CD-ROMユニット
・MO（光磁気ディスク）ドライブ
・ミニカートリッジテープユニット
・カセット磁気テープユニット
・イメージスキャナ　など

SCSIに関する基礎知識

●SCSI機器の接続方法について

SCSI機器は、「デイジーチェーン」と呼ばれる「数珠つなぎ」のような形式で、複数（最大7台）の機器をつなぐことができます。
また、その終端となるSCSI機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置を付けることになっています。



ターミネータ

ターミネータは、「終端BOX」とも呼ばれます。
SCSI機器によっては、ターミネータ機能を内蔵しているものもあります。使用するSCSI機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく設定してください。

SCSI機器が1台の場合

SCSI機器が3台の場合

●SCSI IDについて

SCSI機器は、SCSI IDという0～7の認識番号で区別します。このSCSI IDが重複すると、SCSI機器が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。
通常、SCSIインターフェイスボード自身が7番を使用します。一般的に、外付けのSCSI機器のSCSI IDは0～6番を使います。また、一般的に0番はSCSIハードディスクで使います（その他の機器でも0番を使えないわけではありません）。

●SCSI機器接続ケーブルについて

複数のSCSI機器を接続するとき、ケーブルの総延長が3m以内になるようにしてください。

チェック!!
Ultraに設定したUltra SCSIインターフェイス対応機器を4台以上接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5m以内になるようにしてください。
ケーブルの総延長は取り付ける機器などによって異なります。ボードや機器のマニュアルで確認してください。

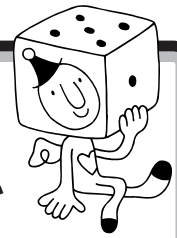
SCSIインターフェイスの種類

現在一般に使われているSCSIインターフェイスには、次の4種類があります。

・SCSIインターフェイス
・SCSI-2インターフェイス
・Ultra SCSIインターフェイス
・Ultra Wide SCSIインターフェイス

SCSI-2インターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を2倍にしたものです。また、Ultra SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を4倍に、Ultra Wide SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を8倍にしたものです。
それぞれ、対応したインターフェイスボード、SCSI機器、ケーブルがあります。SCSIインターフェイスで、SCSI-2インターフェイスに対応した機器を使うことはできませんが、SCSI-2インターフェイスで、SCSIインターフェイスに対応した機器を使うことはできます。

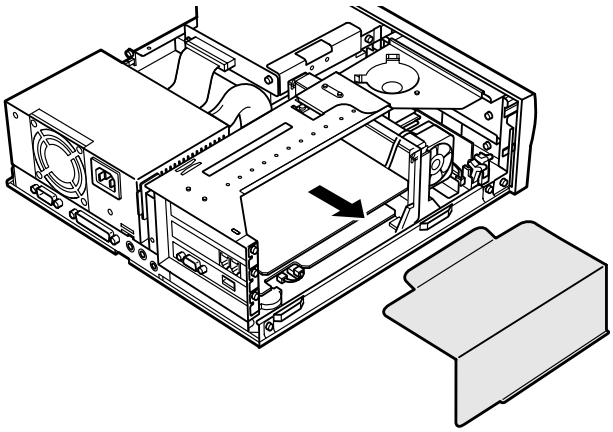
SCSIインターフェイスボードを取り付ける



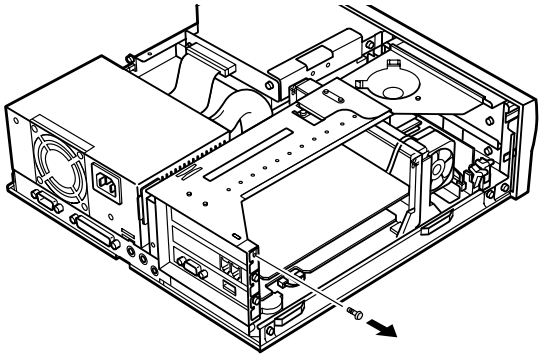
ここでは、SCSI機器を接続するために必要なSCSIインターフェイスボードを取り付ける方法を説明します。

1 正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2 正しい手順で本体のケーブルカバーを外す



3 スロットカバーをとめているネジ1本を外す



チェック!!

このパソコンには、ハーフサイズのPCIボードを1つ取り付けることができます。
すでにPCIボードを取り付けてあるときは、SCSIインターフェイスボードは取り付けられません。

SCSIインターフェイスボードを取り付けるときには、必ずSCSIインターフェイスボードに添付のマニュアルもご覧ください。

参照

ルーフカバー、ケーブルカバーの外し方については→PART 5の「本体の開け方と閉め方」

机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や綿の布などを敷いておくことをおすすめします。

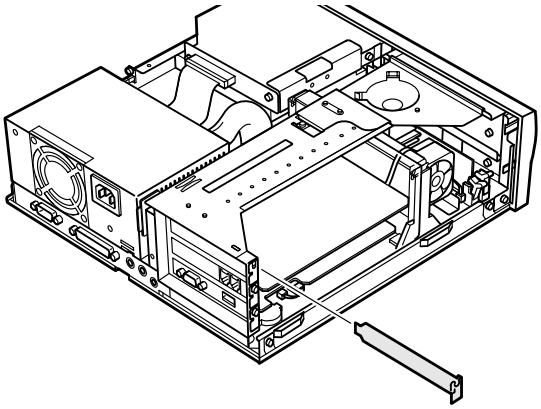
チェック!!

ディスプレイケーブルなど本体背面に接続されているケーブルは、本体からすべて取り外してください。

チェック!!

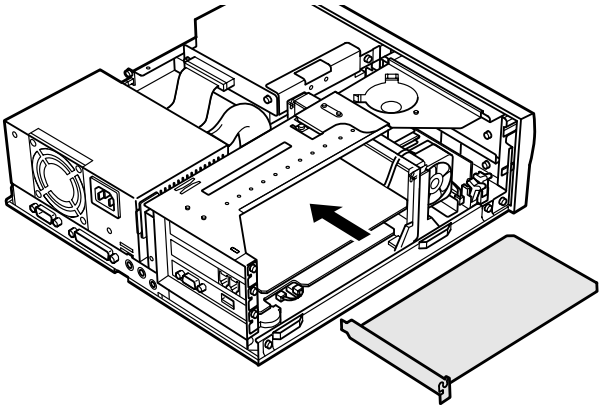
外したネジは、SCSIインターフェイスボードを固定するときに使います。なくさないように、気をつけてください。

4 スロットカバーを取り外す



スロットカバーは、ここで取り付けたボードを取り外さないかぎり、不要となりますが、なくさないように大切に保管してください。

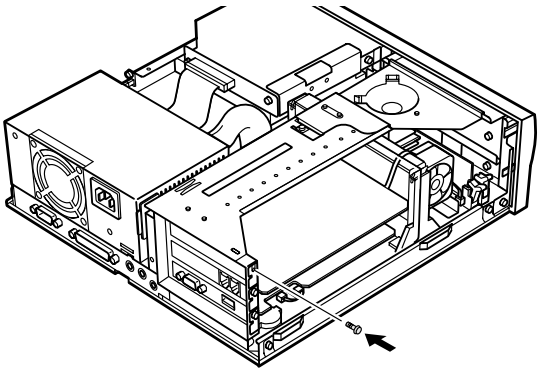
5 SCSIインターフェイスボードを、両手で支えながらスロットに慎重に差し込む



参照

ボードの差し込み方→ PART 9 の「PCIボードを取り付ける」

6 手順 3 で外したネジ 1 本を使って、SCSIインターフェイスボードを固定する



チェック!!

ネジを止めるとき、ネジを本体内部に落とさないように注意してください。

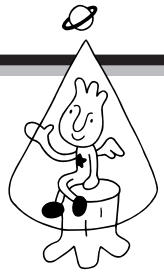
7 正しい手順で本体のケーブルカバーを取り付ける

8 正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

参照

ケーブルカバー、ルーフカバーの取り付け方については→ PART 5 の「本体の開け方と閉め方」

SCSI機器を接続する

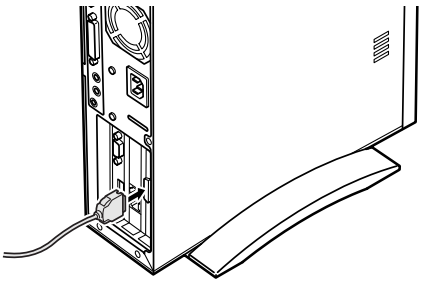


SCSI機器は次のように接続します。

1 SCSI機器のSCSI IDを設定する

SCSI IDの設定方法については、各SCSI機器に添付のマニュアルをご覧ください。

2 本体に取り付けたSCSIインターフェイスボードのSCSIコネクタにSCSIケーブルのプラグを差し込む

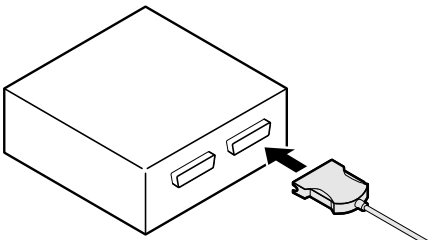


チェック!!

- 接続は本体、SCSI機器の電源を切った状態で行ってください。
- SCSIケーブルのコネクタは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

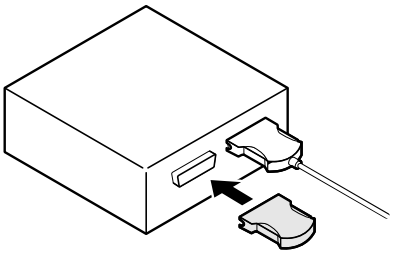
コネクタによっては、左右のフックでコネクタが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

3 SCSI機器のSCSIコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のプラグを差し込む

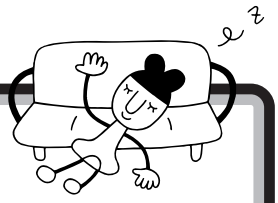


SCSI機器のSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使ってもかまいません。

4 SCSI機器の残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む



複数のSCSI機器を接続する場合には、ターミネータのかわりにもう1本のSCSIケーブルを差し込み、数珠つなぎの方法でSCSI機器を接続していきます。そして終端となる機器にターミネータを差し込みます。



SCSI機器が認識されないときは

取り付けたSCSI機器が認識されないときには、次の点をチェックしてみてください。

●ケーブルがきちんと接続されていますか

見落としがちなことですが、パソコンを動かしたときなど、ケーブルが外れかかっていたりすることがよくあります。SCSIインターフェイスボードと各機器、または各機器どうしを接続しているケーブルやターミネータが、きちんと接続されているかどうか、確認してください。

●ケーブルが長すぎませんか
また、SCSIインターフェイスや機器に対応したケーブルを使っていますか

SCSI-2のデイジーチェーンには、ケーブルの総延長が3m以内という制限があります。短いケーブルなどを使って、制限を超えない総延長にしてください。また、SCSIケーブルは取り付けるSCSI機器のインターフェイスによって使用できるケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認して適したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

●SCSIインターフェイスボードは認識されていますか

SCSIインターフェイスボードのリソースの設定、ドライバの組み込みが正しくできていない場合、SCSIインターフェイスボードが認識されません。「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」で確認してください。正しく認識されていない場合には、SCSIインターフェイスボードのところに、赤い「×」や黄色い「！」のマークが表示されます。

●SCSI IDの設定は正しくできていますか

複数の機器で同じ番号を設定していたりすると、各機器を認識できません。各機器のSCSI IDの設定を確認してください。

●電源を入れる順序は正しいですか

SCSIインターフェイス対応機器を取り付けたときは、本体の電源を入れる前にSCSI機器の電源を入れておかないと、本体の起動時に認識されません。電源を入れる順序をまちがっていた場合は、一度、本体の電源を切ってからSCSI機器の電源を入れ、その後でもう一度本体の電源を入れ直してください。

参照
使用できるケーブルについて→SCSIインターフェイスボードのマニュアル、SCSIインターフェイス対応機器のマニュアル

参照
うまく動かないときは→PART 11の「リソースに関する問題」
CyberTrio-NXのモードが「ベーシックモード」の場合は、デバイスマネージャでの設定はできません。「アドバンストモード」に変更してください。

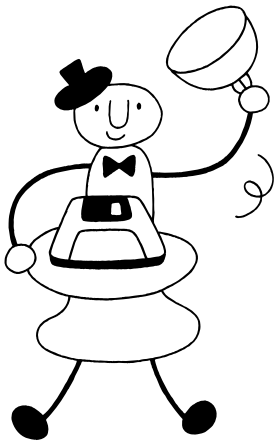
参照
CyberTrio-NXのモード変更→『リファレンス』PART 1の「Windows 95の利用環境の変更＜CyberTrio-NX＞」

PART

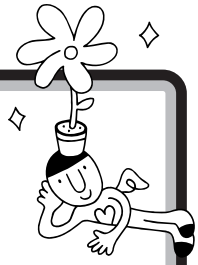
9

PCIボードを使う

このパソコンには、前のPARTで説明したSCSIインターフェイスボード以外にも、いろいろな種類のPCIボードを取り付けることができます。



PCIスロットについて



ここでは、このパソコンのPCIスロットについて簡単に説明します。

いろいろなPCIボード

PCIボードには、主に次のようなものがあります。

●SCSIインターフェイスボード

このパソコンにSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

●LAN（ネットワーク）ボード

このパソコンをLANに接続するためのボードです。

●3Dアクセラレータボード

3DCG（立体的なコンピュータグラフィックス）の表示を高速にするボードです。

SCSIインターフェイスボードの取り付け方、使い方については→PART 8の「SCSIインターフェイス対応機器を使う」

チェック!!

このパソコンには、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。

チェック!!

PCIボードは、この他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。
これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認するようにしてください。

PCIスロット

このパソコンには、下の図のようなPCIスロットがあります。

●PCIスロット#1、#2、#3

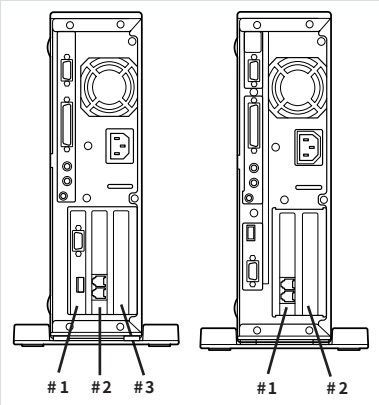
（VC33/3、VC26/3、VE26/3の場合）

購入時には、PCIスロット#1にアクセラレータボードが、PCIスロット#2にFAXモデムボードが取り付けられています。PCIスロット#3にハーフサイズのPCIボードを1枚取り付けることができます。

●PCIスロット#1、#2

（VC23/3、VE23/3の場合）

購入時には、PCIスロット#1にFAXモデムボードが取り付けられています。PCIスロット#2にハーフサイズのPCIボードを1枚取り付けることができます。



チェック!!

VC33/3、VC26/3、VE26/3のPCIスロット#1に取り付けられているアクセラレータボードは外さないでください。

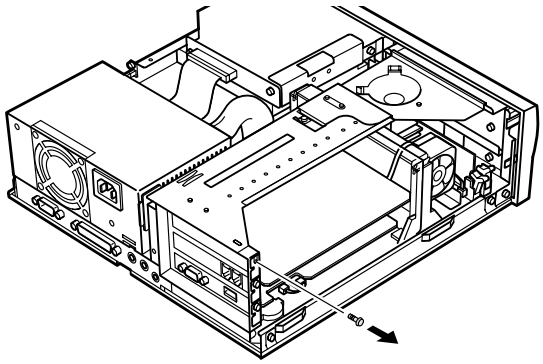
PCIボードを取り付ける

ここでは、このパソコンにPCIボードを取り付ける方法を説明します。

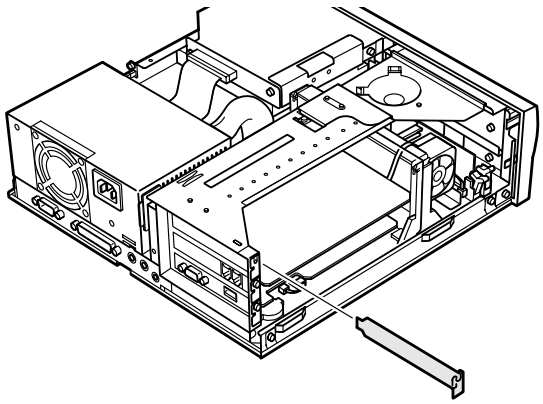
1 正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2 正しい手順で本体のケーブルカバーを外す

3 スロットカバーをとめているネジ 1 本を外す



4 スロットカバーを取り外す



PCI ボードを取り付けるときには、必ず PCIボードに付属のマニュアルもご覧ください。

参照

ルーフカバー、ケーブルカバーの外し方については→ PART 5 の「本体の開け方と閉め方」

チェック!!

ディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

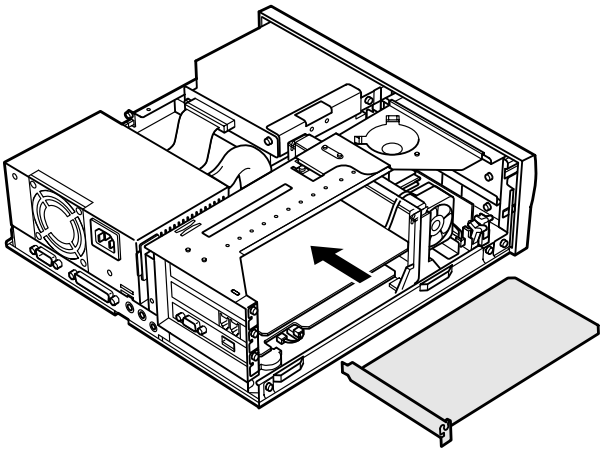
机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や綿の布などを敷いておくことをおすすめします。

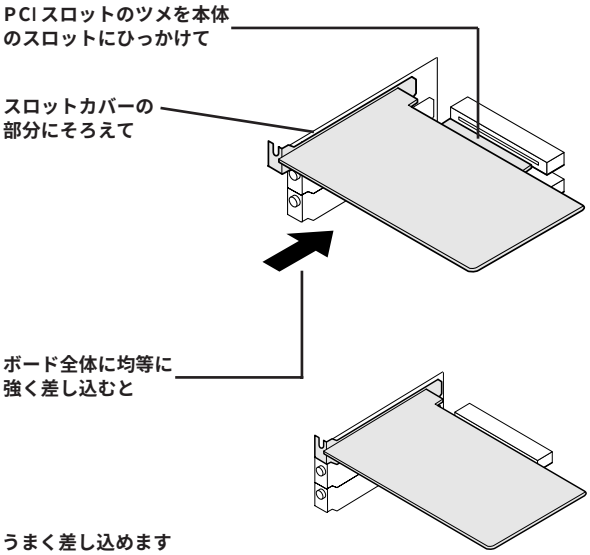
チェック!!

外したネジは、PCIボードを固定するときに使います。なくさないように、気をつけてください。

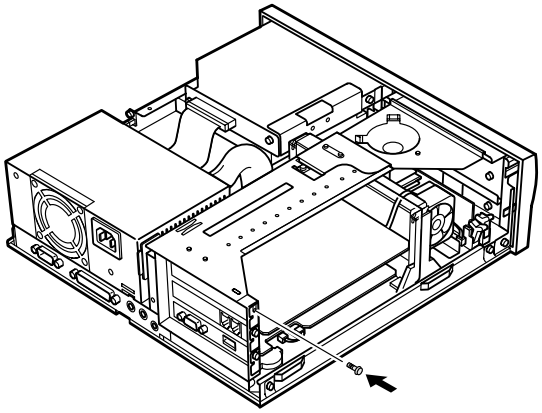
スロットカバーは、ここで取り付けたボードを取り外さないかぎり、不要となりますが、なくさないように大切に保管してください。

5 **PCIボードを、両手で支えながらスロットに慎重に差し込む**





6 **手順3で外したネジ1本を使って、PCIボードを固定する**



7 **正しい手順で本体のケーブルカバーを取り付ける**

8 **正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける**

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、パソコン側で設定作業が必要なものもあります。詳しくは、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。
また、PCIボードの使い方についても、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。

チェック!!
ネジをとめるとき、ネジをパソコン内部に落とさないように気をつけてください。

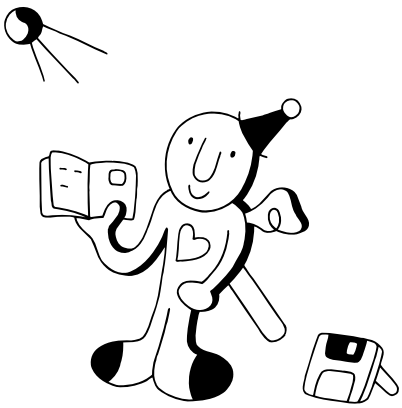
参照
ケーブルカバー、ルーフカバーの取り付け方については→PART 5の「本体の開け方と閉め方」

PART

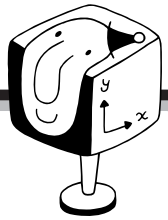
10

VRAMを増やす

VC26/3、VE26/3の場合、増設VRAMを取り付けることで、1024 × 768 ドットのデスクトップ領域(画面の解像度)で、True Color(1677万色)の表示を実現することができます。



VRAMについて



VRAM（ビデオRAM）は、画面表示のために使うメモリです。このメモリの大きさによって、画面に表示できる色数が変わります。

このパソコンには、標準で2Mバイト、または4MバイトのVRAMが入っています。VRAMが2Mバイトの場合には、次のような色数を使うことができます。

解像度	表示色
640×480ドット	16色/256色/High Color（32,768色）＊2/True Color（1,677万色）
800×600ドット	256色/High Color（32,768色）＊2/True Color（1,677万色）
1024×768ドット	256色/High Color（32,768色）＊2
1280×1024ドット＊1	256色

＊1 ディスプレイセットモデルにセットの液晶ディスプレイおよび15インチCRTディスプレイでは表示できません。この解像度に対応した別売のディスプレイを接続した場合に使用できます。
＊2 VC23/3、VE23/3では65,536色

別売のディスプレイを使っている場合、接続するディスプレイによって、表示できる解像度は異なります。詳しくはディスプレイのマニュアルをご覧ください。

VRAMを4Mバイトにすると

VC26/3、VE26/3の場合、増設VRAM（PK-UG-M004）（2Mバイト）を取り付けると、VRAMは合計4Mバイトになります。
VRAMが4Mバイトある場合には、上記の色数に加えて次のような色数が表示できるようになります。
コンピュータグラフィックに本格的に取り組む場合などに、VRAMの増設を検討してください。

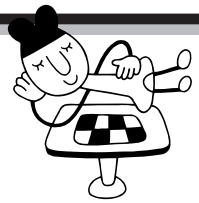
解像度	表示色
1024×768ドット	True Color（1,677万色）
1280×1024ドット*	High Color（32,768色）

＊ ディスプレイセットモデルにセットの液晶ディスプレイおよび15インチCRTディスプレイでは表示できません。この解像度に対応した別売のディスプレイを接続した場合に使用できます。

チェック!!

- VC23/3、VE23/3には増設できません。
- VC33/3には標準で4MバイトのVRAMが入っています。

増設VRAMの取り付け方



増設VRAMは、次のような手順で取り付けます。

VC23/3、VE23/3には増設VRAMは取り付けられません。

増設VRAMを取り扱うときに気をつけること

増設VRAMは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設VRAMに触れると、増設VRAMが破損する原因となります。増設VRAMに触れる前に、身近な金属（アルミサッシやドアのノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

増設VRAMの取り付け方

増設VRAMは、アクセラレータボード上にあるコネクタに取り付けます。

1 正しい手順で本体のルーフカバーを外す

参照

ルーフカバー、ケーブルカバーの外し方については→PART 5の「本体の開け方と閉め方」

2 正しい手順で本体のケーブルカバーを外す

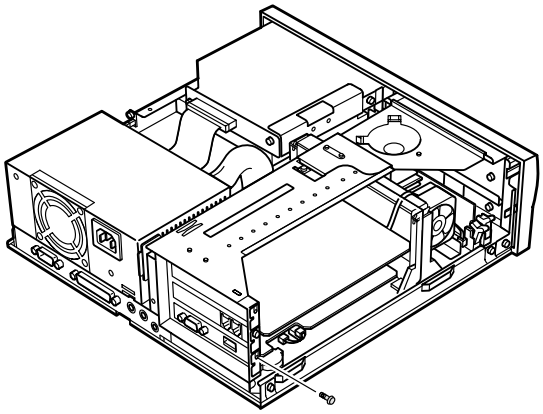
机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や綿の布などを敷いておくことをおすすめします。

3 アクセラレータボードをとめているネジ1本を外す

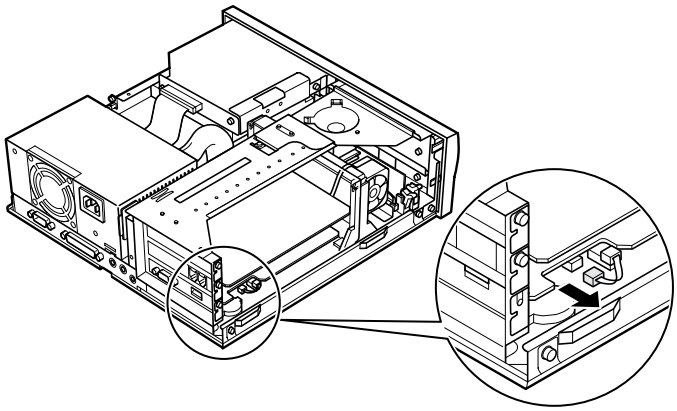
チェック!!

外したネジは、なくさないように注意してください。

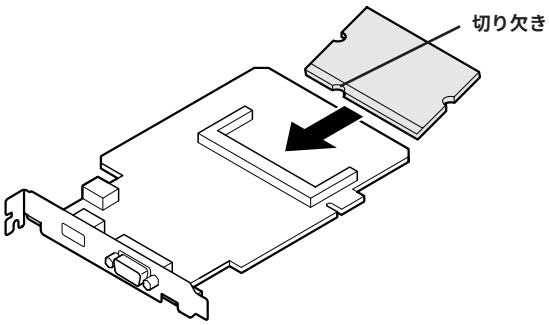
アクセラレータボードは、PCIスロット#1に取り付けられています。



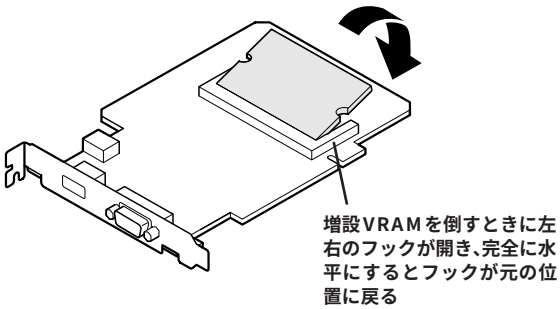
4 アクセラレータボードに取り付けられているケーブルのプラグを外し、アクセラレータボードを取り外す



5 増設VRAMの端子側を、切り欠きの位置を合わせて、ななめにしっかりスロットに差し込む



6 カチッと音がして、増設 VRAM が左右のフックで固定されるまで増設 VRAM を水平にする



チェック!!

増設 VRAM がしっかり固定されていることを確認してください。しっかり固定されていない状態で使用すると、故障することがあります。

7 **取り外したときと逆の手順でアクセラレータボードを取り付ける**

手順4で取り外したケーブルも元通りに取り付けます。

8 **正しい手順で本体のケーブルカバーを取り付ける**

9 **正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける**

チェック!!

アクセラレータボードに取り付けたケーブルがはみださないように、気をつけてください。

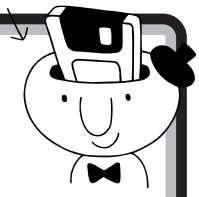
チェック!!

このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。

参照

ルーフカバーの取り付け方については→PART 5の「本体の開け方と閉め方」

増やしたVRAMを確認する



取り付けた増設VRAMが認識されたかどうかを確認します。

1 「スタート」をクリックし、「設定」にポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックする

2 「画面」をダブルクリックする

3 「ディスプレイの詳細」タブをクリックする

4 「デスクトップ領域」で「1024×768ピクセル」を選択する

5 **「カラーパレット」のドロップダウンリストを開き、「True Color」を選択する**

「デスクトップ領域」が「1024×768ピクセル」のままになっていれば、VRAMが正しく認識されています。「キャンセル」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

「デスクトップ領域」が「800×600ピクセル」に変わっていれば、次のことを確認してください。

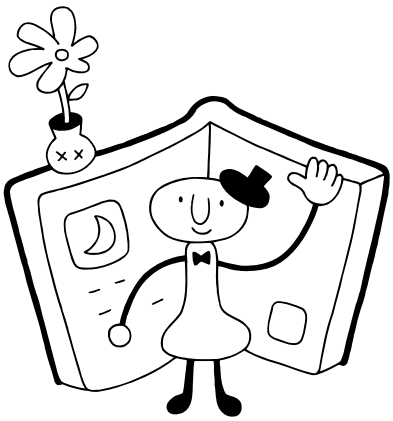
- **増設VRAMが正しく取り付けられているか？**
- **このパソコンで使える増設VRAMを取り付けているか？**

PART

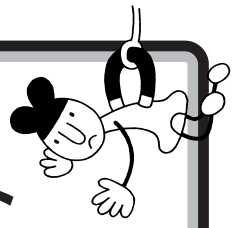
11

うまく動かないときは

手順通りに作業したのに増設した周辺機器が使えない、周辺機器を増設したらパソコンが起動しなくなったといったときには、この章を読んでみてください。トラブルを解決するヒントを説明しています。



困ったときのチェックポイント



増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

●電源は入っていますか？

外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。

●取り付けた周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けた周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルや周辺機器のメーカーへ問い合わせて、確認してください。

●ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

●本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときに、気づかないうちに内部の信号ケーブルなどを引っぱって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。

●ドライバは組み込みましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバ（やソフト）を組み込む必要のあるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しくドライバを組み込んでください。
ドライバの情報は、このパソコンや周辺機器の Readme ファイルに書いてあることがあります。
また、周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせて、最新のドライバを入手してください。

●周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、一つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。

●設定はしましたか？

プレイステイック、プレイパッドやドライビングホイールのように、接続のあと設定の必要な機器があります。

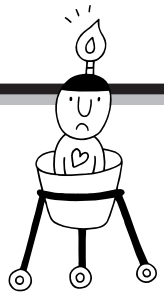
●他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。

参照
リソースの問題については→ PART 11 の「リソースに関する問題」

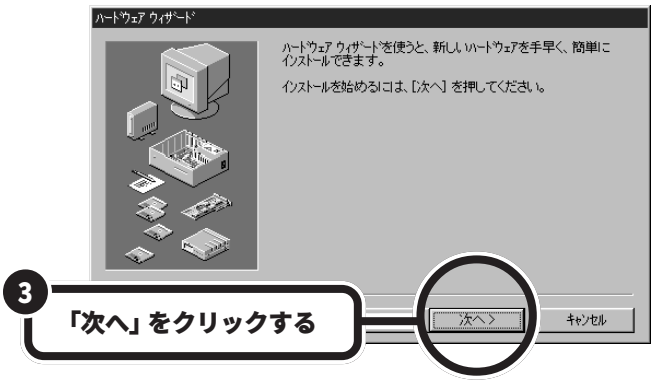
こんなときは

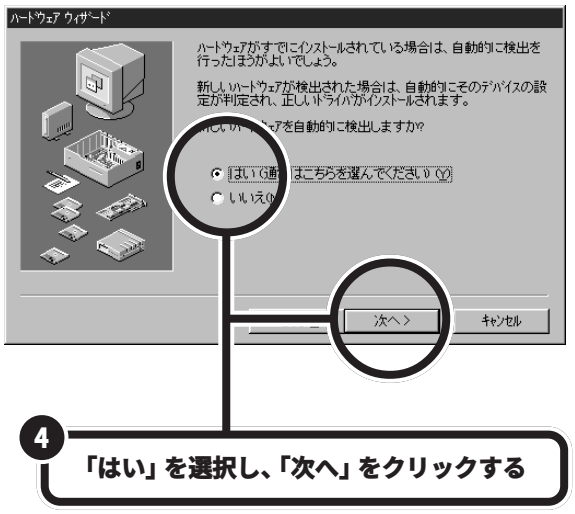
ここでは、比較的よく起こる問題の
解決方法をいくつか紹介します。



「新しいハードウェアが見つかりました」と表示されない

周辺機器のマニュアルには、「取り付け後、パソコンの電源を入れると－新しいハードウェアが見つかりました － とメッセージが表示される」と書いてあるのに、やってみると出てこない。
こんな場合は、次の手順で周辺機器を探して、必要な作業を行います。





これで、Windows が新しい周辺機器を探しはじめます。以降の操作については、画面の指示および周辺機器に付属のマニュアルをご覧ください。

この操作を行っても新しいハードウェアが認識されない場合には、取り付けを再確認してください。
それでも認識されない場合は、ここで紹介している操作の手順 4 で「いいえ」を選択し、手動で機器の詳細な設定を行ってください。

「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示される

「ハードウェアウィザード」で、ドライバの場所の指定をしても、「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示され、再び「場所の指定」をする画面に戻ってしまう場合には、次の手順でドライバを組み込んでください。

1 「スタート」をクリックし、「プログラム」、「CyberTrio-NX」の順にポインタを合わせ、「Go To アドバンストモード」をクリックする

2 「スタート」をクリックし、「設定」にポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックする

用語

ハードウェアウィザード

Windows 95 に追加されたハードウェアを検索してドライバのインストールなどを行う機能です。

チェック!!

CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」の場合（購入時の状態）は、デバイスマネージャでの設定はできません。「アドバンストモード」に変更して、設定をしてください。

参照

CyberTrio-NX のモード変更→『リファレンス』PART 1「Windows 95 の利用環境の変更＜CyberTrio-NX＞」

3 「システム」をダブルクリックする

4 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

5 該当するデバイスをクリックする

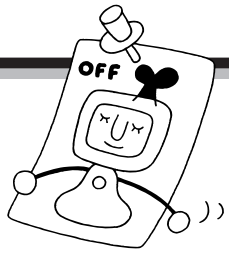
6 「プロパティ」をクリックする

7 「ドライバ」タブをクリックする

8 「ドライバの更新」をクリックする

これで「デバイスドライバウィザード」の画面が表示されます。以降の操作については、画面の指示および周辺機器に付属のマニュアルをご覧ください。

リソースに関する問題



パソコンには、周辺機器が使用するための「リソース」という概念があります。ここでは、少しだけこのリソースについて説明します。

PCIボードなら大丈夫？

リソースは、パソコンの中心「CPU」と周辺機器が、円滑に情報をやりとりするために必要な設定項目です。大きく「割り込みレベル（IRQ）」、「DMAチャネル」に分けられます。
通常は、パソコン（Windows 95）が自動的にこれらの設定を管理します。したがって、設定を変更したり、確認したりする必要はほとんどありません。
しかし、PCIボードによっては、パソコンまかせだと、うまく動かないケースもあります。こんな場合には、リソースをあらためて設定する必要があります。

リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindows 95の解説本やパソコン雑誌などをご覧ください。

参照

うまく動かないときは→『困ったときのQ&A』PART 1の「周辺機器を取り付けようとしたら」

リソースが競合したら

PCIボードを取り付けたときなどに、リソースの競合が起こって接続した周辺機器が使えないときは、それまで使用していた機器を使用しないようにすることで、その機器に割り当てられていたリソースを解放することができます。
解放されたリソースを使って、リソースが競合しないように設定してください。

チェック!!

リソースの競合などを避けるため、ある機器のリソースを解放すると、その機器は使えなくなります。再びその機器を使う場合には、リソースを設定し直してください。

このパソコンが利用しているリソース

このパソコンは、次のようにリソースを使用しています（購入時の設定）。

●割り込みレベル（IRQ）

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	（空き）
4	シリアルポート（COM1）
5	サウンド
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	USBインターフェイス
10	FAXモデムボード※1
11	アクセラレータ
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ（プライマリ）
15	IDEコントローラ（セカンダリ）

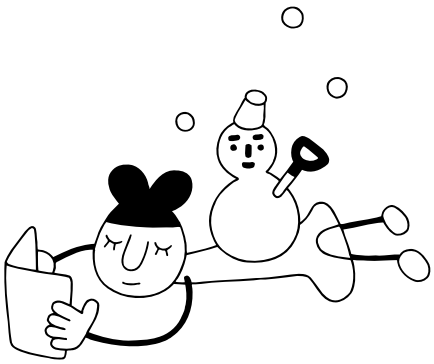
※1：
FAXモデムボードのIRQ設定を変更する場合は、IRQ 3/4/7/10を使用することを推奨します。

●DMA チャネル

DMA	機能
#0	サウンド※1
#1	サウンド※1
#2	フロッピーディスクコントローラ
#3	（空き）
#4	DMAコントローラ
#5	（空き）
#6	（空き）
#7	（空き）

※1：
サウンド機能が設定可能なDMAチャネルは、#0/#1/#3です（このうち2つを使用します）。

索　引



英数字

3Dアクセラレータボード 84
DIMM 52
DMAチャネル 106
DSU 30
dpi 21
IRQ 105
ISDN 30
ISDNターミナルアダプタ 22
LAN（ネットワーク）ボード 84
MO（光磁気ディスク）ドライブ 76
OCR 21
PCIスロット 84
PCIボードの取り付け 85
RAMサブボード 52
SCSI（スカジー） 76
SCSI ID 64,77
SCSI-2インターフェイス 77
SCSIインターフェイス 64,76
SCSIインターフェイスボード 64,78
SCSIインターフェイスボードの取り付け . 78
SCSI機器..... 64,76,81
SCSIケーブル..... 76
SIMM 52
TWAIN 20
Ultra SCSI 77
Ultra Wide SCSI 64,77
USB 18
USBコネクタ 18
USB接続ケーブル 18
USB対応プリンタ 5
USBハブ 19
VRAM 90

あ行

イメージスキャナ 20,76
色数..... 90
インクジェットプリンタ 2
インターフェイス 18

か行

解像度 21,90
外部オーディオ機器 26
カラーパレット 95
ケーブルカバー 48

さ行

スカジー（SCSI） 76
スロットカバー 78,85
増設RAMサブボード 52,56
増設VRAM 90
外付け用ハードディスク 64

た行

ターミナルアダプタ 30
ターミネータ 76
チェックポイント 98
デイジーチェーン 76
デジタルビデオカメラ 22
デバイスドライバウィザード 10
ドットインパクトプリンタ 3
ドライビングホイール 22
ドライブ名 67
ドライバ 38

は行

ハードウェアウィザード 101
ハードディスク 64,76
パラレルコネクタ 7
表示色 90
フォーマット 66,72
プラグ&プレイ 18,38
プリンタインタフェース変換アダプタ 4
プリンタケーブル 4
プリンタドライバ 9,16
プリンタの接続 5
フルカラーイメージスキャナ 20
プレイスティック 22
プレイパッド 22
フロントマスク 45
ページプリンタ 2
ヘッドホン 24

ま行

メモリ 52

ら行

リソース 104
領域の作成 70
領域の削除 68
ルーフカバー 40,78
レーザープリンタ 2

わ行

割り込みレベル（IRQ） 105

わかる、できる、役に立つ!!

拡張の手引き

PC98-NX SERIES

VALUESTAR NX

VC33/3 VC26/3 VC23/3
VE26/3 VE23/3

初版 1998年6月
NEC
P

このマニュアルはエコマーク認定の
再生紙を使用しています。

808-883619-005-A